

1987-14

和光大学芸術学科

ガイダンス

1987-4-15

記号論入門・No.1

「記号論入門」に入門

橋爪大三郎

記号論入門・調査票 1987.4.15

学生証番号

氏名

§ 講義の目標：「記号論 semiology; semiotic studies」という学問の発想や方法に馴れ
んでもらい、現代のさまざまな社会・文化現象を、記号論の観点から理解
・分析することができるようになるように。

§ 講義の内容：(1) 標準的な記号論の紹介 ←そもそも記号論がどんなものなのか、知ら
(ほんのさわり) ないと困るので、ひととおり手ほどき。

* ソシュールの『一般言語学講義』(丸山説による)

* レヴィ=ストロースの親族研究と神話研究(構造主義)

* バルトの記号論(コノテーションの概念を中心に)

《ここまで講義している間に受講生諸君の希望も聞き、以下のテーマから適宜選択する》

(2) 消費社会と記号：ボードリヤールの経済学批判を素材に

←資本主義社会の現在が、どうして記号化してしまうのか、理屈っ
ぱく分析する。きっとみんな、頭が痛くなること請け合い。

(3) 映像の記号論：形式分析と内容分析

←映画(のシナリオ)を何本か見てもらって、その神話分析を実習
する。気楽そうだが、実はレポート提出が待っている。

(4) 性の記号論：性愛・性別・性現象

←男女関係の日常の、無意識な社会技術の堆積を記号論的に分析。
たぶんアンケート調査を実施するので、協力してください。

(5) <日本>社会の記号論：西欧との対比から

←日本社会の構造的特質について、まず仮説を呈示。その上で、紋
様、美意識、死生観、性愛倫理、家、……などを織りませ考察。

§ 時間の配分：(1)-6回 / (2)~(5)の内、いくつかのテーマを、計20回位。

§ 試験の方法：学年末に試験を実施の予定。成績がよければ出席は考慮しない。希望者は
レポートも提出可。←御利益・①出席点②高得点の方を成績につける。

§ 参考書：丸山圭三郎『ソシュールの思想』岩波；『構造主義とはなにか』みすず；バル
ト『文学の記号論』みすず。←以上、さしあたり。

§ 講師紹介：社会学専攻。無所属。日本記号学会会員。著書『言語ゲームと社会理論—
ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン—』『仏教の言説戦略』勁草書
房。論文多数。連絡先：☎248 鎌倉市材木座 5-9-11 Hashizume Daisaburo

(1) つぎの語句のうち、そのいみをひとに説明できると思うものの番号を、○で囲め。

- 1. 流行 2. 信号 3. 暗号 4. ブランド 5. 象徴
- 6. 構造主義 7. パラダイム 8. チョムスキー 9. 二重分節 10. 少壮文法学派
- 11. サピア=ウォーフの仮説 12. 音韻三角形 13. リゾーム 14. アブジェクト

(2) 記号論とはどのような学問だと思うか。思うとおりを書きなさい。

(3) 最近読んだ本や文章で、今回の講義と多少とも関係がありそうなものがあれば、よく
思いだして、いくつでも記せ。

著者〔	タイトル〔	版元〔
〔	〔	〔
〔	〔	〔

(4) こんなテーマをとりあげてほしい、という希望があれば、なんでも構わないから記せ
(なるべく具体的に)。

§ [今日のテーマ] 記号論と聞き、「矢印や看板の仕組みを検べるのだ」と狭く考えた人が多かったようなので、この学問が現れるまでの来歴をのべます。記号論の前身は、西欧の言語思想。そのまた前身は宗教。つまり、記号論⇐言語思想⇐宗教、のようです。

§ [キリスト教の骨組み] 西欧で宗教といえばキリスト教。そのエッセンスを言えば：

- (1) ただ一人の神がいる。その神が、人間や自然や天体を含む、一切を創造した。
- (2) 人間は神に逆らって、地上に追放された。それでもまだ、神との約束を守れない。
- (3) 神は人間を救済するため、ひとり子イエス=キリストを地上におくった。
- (4) 人間はイエスをいじめて殺した。無実のイエスは、人間の罪を背負って死んだ。
- (5) イエスは復活し、神の許へ帰った。そして間もなく、人間を審きにやってくる。
- (6) 審きの結果、ある者は生まれ変わって神の国に入り、ある者は永遠に破滅する。

* ここでいくつか注意すべき点を掲げておくと、

- ①神には名前がない。また、神の絵を描いてはいけない。(∵神は唯一である。)
- ②神はことばと一体である。本当のことばは神のことば(聖書)である。
- ③ことばは世界と対応している。ことばの意味は、世界のなかに存在している。
- ④神と地上の人間とのコミュニケーション手段は、ことば・物質を介さない。⇒霊

§ [キリスト教文明の発展] それでどうなったか？

- i ことば=契約=法。ことばが個々の人間や社会から独立した秩序になる。
- ii なかなか審きがやってこない。→天国への鍵を預かる教会の成立。聖礼典、宗教画。
- iii 聖書と教会の矛盾の発見。→宗教改革：天国の鍵は誰も持っていない。世俗内禁欲。
- iv 個の確立：遠近法の成立。天才の出現。表現=作品の成立。
- v 理性の確立：自然の法則=創造の神秘=神の計画を探る。⇒科学・実証主義。
- vi 神はいない(かもしれない)→実存主義：存在=不条理。主/客図式の崩壊。

* 結局のところ……人間がなぜことばをしっているのか、なぜことばが意味をもつのか、すっかりわからなくなってしまった。⇒言語哲学、言語学の出発。

§ [人間は、ことばを喋る存在である] 「人間がなぜことばを喋るのか」という問いは変だ。→「ことばを喋るのが人間である」、即ち、ことばが人間にはいちばん基本的。

- * このことに気づいたのが、ソシュール(とレヴィ=ストロース)。それには、ことばの「意味」を、伝統的な理解(世界との対応)から解き放つ必要あり。⇒記号論の出発。
- * 記号論とは、一種の無神論なのである。(∵ことばが人間をつくる。)

宗教vs科学 ⇒しかし自然科学は言語(人間本性)を扱えない ⇒記号としての言語

§ 参考書(追加)：池上嘉彦「記号論への招待」岩波新書；

山口昌男監修「説き語り記号論」TBSブリタニカ ¥1500

§ [今日のテーマ] 記号論と聞き、「矢印や看板の仕組みを検べるのだ」と狭く考えた人が多かったようなので、この学問が現れるまでの来歴をのべます。記号論の前身は、西欧の言語思想。そのまた前身は宗教。つまり、記号論⇐言語思想⇐宗教、のようです。

§ [キリスト教の骨組み] 西欧で宗教といえばキリスト教。そのエッセンスを言えば：

- (1) ただ一人の神がいる。その神が、人間や自然や天体を含む、一切を創造した。
- (2) 人間は神に逆らって、地上に追放された。それでもまだ、神との約束を守れない。
- (3) 神は人間を救済するため、ひとり子イエス=キリストを地上におくった。
- (4) 人間はイエスをいじめて殺した。無実のイエスは、人間の罪を背負って死んだ。
- (5) イエスは復活し、神の許へ帰った。そして間もなく、人間を審きにやってくる。
- (6) 審きの結果、ある者は生まれ変わって神の国に入り、ある者は永遠に破滅する。

* ここでいくつか注意すべき点を掲げておくと、

- ①神には名前がない。また、神の絵を描いてはいけない。(∵神は唯一である。)
- ②神はことばと一体である。本当のことばは神のことば(聖書)である。
- ③ことばは世界と対応している。ことばの意味は、世界のなかに存在している。
- ④神と地上の人間とのコミュニケーション手段は、ことば・物質を介さない。⇒霊

§ [キリスト教文明の発展] それでどうなったか？

- i ことば=契約=法。ことばが個々の人間や社会から独立した秩序になる。
- ii なかなか審きがやってこない。→天国への鍵を預かる教会の成立。聖礼典、宗教画。
- iii 聖書と教会の矛盾の発見。→宗教改革：天国の鍵は誰も持っていない。世俗内禁欲。
- iv 個の確立：遠近法の成立。天才の出現。表現=作品の成立。
- v 理性の確立：自然の法則=創造の神秘=神の計画を探る。⇒科学・実証主義。
- vi 神はいない(かもしれない)→実存主義：存在=不条理。主/客図式の崩壊。

* 結局のところ……人間がなぜことばをしっているのか、なぜことばが意味をもつのか、すっかりわからなくなってしまった。⇒言語哲学、言語学の出発。

§ [人間は、ことばを喋る存在である] 「人間がなぜことばを喋るのか」という問いは変だ。→「ことばを喋るのが人間である」、即ち、ことばが人間にはいちばん基本的。

- * このことに気づいたのが、ソシュール(とレヴィ=ストロース)。それには、ことばの「意味」を、伝統的な理解(世界との対応)から解き放つ必要あり。⇒記号論の出発。
- * 記号論とは、一種の無神論なのである。(∵ことばが人間をつくる。)

宗教vs科学 ⇒しかし自然科学は言語(人間本性)を扱えない ⇒記号としての言語

§ 参考書(追加)：池上嘉彦「記号論への招待」岩波新書；

山口昌男監修「説き語り記号論」TBSブリタニカ ¥1500

§ [今日のキーワード]

共時態/通時態、ランガージュ/ラング/パロール、
恣意性、シーニュ/シニフィアン/シニフィエ

《今日から本題に入ります。ノートがとり易いように、ゆっくり喋ります。質問歓迎。》

§ ソシュール:人と仕事 Ferdinand de Saussure 1857-1913 稀にみる天才

- * ジュネーブ生まれの言語学者。ライプチヒ留学→パリ→ジュネーブ大学教授
『インド=ヨーロッパ諸語における母音の原初体系に関する覚え書』1878:21歳
- * 講義は三回行われた。I 1907 II 1908-09 III 1910-11 →弟子達のノート
- * 死後弟子達が、講義を一冊に編纂(1916刊)。邦訳1928年。最近遺稿発見。
- * 晩年には、アナグラム(=文字の謎解き)や神話を研究していたらしい。

§ ソシュール以前の言語学 聖書+ギリシャ思想に固められた言語観

- * 規範文法(ポール・ロワイヤル文法)…中世の修辞学の伝統 言語名称目録説
- * サンスクリットの発見(18世紀末、ジョーンズ卿) → 実証的歴史言語学へ
- * 少壮文法学派 ヘルマン・パウラら ライプチヒ中心
- ** ことばの意味を、それが指示する対象物(référent)とみなす ←だめな考え方

§ ソシュールの言語思想 ←ここを聞きもらすと、あとがチンプンカンプンになる!

- * 恣意性 arbitraire 恣意性 I (←有縁性 motivé) /恣意性 II
- * 記号 signe (言語) /象徴 symbole (交通標識) /自然的指標 indice(黒雲)
無縁/有縁::言語/交通標識・黒雲 人工/自然::言語・交通標識/黒雲
- * 共時態 synchronie /通時態 diachronie
- * ランガージュ langue =ラングlangue+パロール parole
ランガージュ:言語活動 ラング:言語の諸規則 パロール:個々の発話
- * 言語の線状性 範列 paradigme/連辞 syntagme =rapport associatif
- * 言語記号は、対立の体系 système des oppositions をなす。価値 valeur
言語のなかには、差異 difference しかない。
- * シーニュ signe=シニフィアン signifiant(SA) +シニフィエ signifié(SE)
聴覚映像 image acoustique /概念 concept
⇒伝統的な記号の定義「自分とは別の現象を告知・指示するもの」を否定。

§ 参考文献 ソシュール『一般言語学講義』岩波。(前回訂正 TBS→日本ブリタニカ)
竹田青嗣『現代思想の冒険』毎日新聞社。¥1300.- ←とてもよい!お勧め
プリエート『記号学とはなにか』白水社。

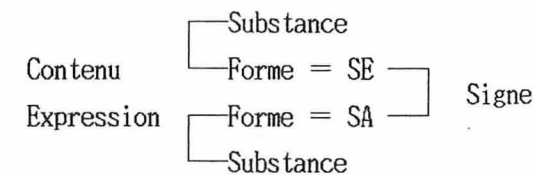
§ [今日のキーワード]

音素 形態素 二項対立 子音-母音三角形 弁別特性
二重分節 言理学 コード/メッセージ

§ プラーク学派の音韻論 トゥルベツコイ Trubetzkoy ; ヤーコブソン Jakobson ら

- * 音韻論 phonologie /音声学 phonétique ×ことばは物理音からできている
- * 音素 phonème:意味を識別するための最小単位 Cf形態素:意味形成の最小単位
音素は、いくつかの弁別特性 distinctive features の束である。
- * 母音三角形 a/u/i ---- 子音三角形 k/p/t ←二項対立 binary opposition
ヤーコブソンはモスクワ出身。N.Y.でレヴィ=ストロースにソシュール言語学を教授。

§ イェルムスレウ Hjelmslev らの、言理学 glossematics (コペンハーゲン学派)



§ その他の人びとへの影響

- * ブルームフィールド L.Bloomfield の、アメリカ構造言語学
- * マルティネ A.Martinet の、機能主義言語論 二重分節 double articulation
- * 時枝誠記の、言語過程説 →三浦つとむの批判、吉本隆明の『言語美』
- * ヤーコブソンの、コード/メッセージ図式
発信者⇒エンコード⇒メッセージ……⇒デコード⇒受信者
コミュニケーションの成功=発信者と受信者の思想の一致。コード共有が必要。

§ 結論:要するに、ソシュール言語学のどこが新しかったか?

- * 言語は、客観的に実在する物質世界と直接つながりをもたない、形式的秩序。
- * 言語(や社会や意味)の研究は、自然科学と別個の方法によって進めるべきだ。

§ 参考文献 トゥルベツコイ『音韻論の原理』岩波書店。 ヤーコブソン『一般言語学』
みすず書房。 マルティネ『一般言語学要理』岩波書店。 イェルムスレウ
『言語理論序説』研究社。 三浦つとむ『言語学と記号学』勁草書房。 吉
本隆明『言語にとって美とはなにかI・II』角川文庫。 興津達朗『言語学
史』(英語学大系14)小泉保・牧野勤『音韻論I』(〃大系1)大修館。

《連絡:映画『マルサの女』を観て分析したい人は、レポートを提出してよろしい》

§ [キーワード] 生成文法 変形 言語能力／言語運用 トークン・ランゲージ
手話 発話行為 発語行為／発語内行為／発語媒介行為 執行文

§ チョムスキーの生成文法 Noam Chomsky 1928- アメリカの言語学者・平和運動家。
* 『文法の構造』(1957) : ある言語を「生成」する文法 generative grammar を着想
生成=集合の要素を残らず演算によって導くこと。例: 自然数=1+1+1+……
* 言語能力 linguistic competence / 言語運用 linguistic performance
* S→NP+VP VP→V+NP …… 統語論／意味論／音韻論／語用論pragmatics
* 人間の言語を説明するには、有限状態文法では不十分。また、変形規則が有用。
* 初期理論→標準理論→拡大標準理論→GB理論。他に生成意味論・格文法など。
* 普遍文法: 各言語の生成文法に共通する部分 ←人間精神の記述!

§ 類人猿の言語能力
* パプロフの条件反射 (←無条件反射) 発見 ⇒行動主義: 行動を環境から説明
* 言語行動は環境で説明できない (人間は自由)! ⇒Q類人猿が喋れないのはなぜ?
* ココ (ゴリラ): Patterson, ワシユ (チンパンジー): Gardner …ASL を教える実験
* サラ (チンパンジー): Premack … 人工言語 (token language) を教える実験
* ラナ (チンパンジー): Rumbaugh … 人工言語 (ボタン操作) を教える実験

§ オースティンの発話行為 speech act 論 J.L. Austin 1911-1960 イギリスの哲学者。
* Qことばのいみは、真／偽 (客観との一致／不一致) だけに尽きるだろうか?
* 執行文 performative sentence : 発言=出来事の成立 eg 命令、謝罪、挨拶、…
* i 発語行為 locutionary act : 一定の言葉を意味あるものとして使用すること。
ii 発語内行為 illocutionary act : “使用するとき、遂行されてしまう行為。
iii 発語媒介行為 perlocutionary act : “使用した結果生じることになる行為。

§ 参考文献 チョムスキー『文法の構造』『文法理論の諸相』研究社。中島文雄『英語の
構造 (上) (下)』岩波新書。パン編『手話と文化』文化評論出版。リンデン
『チンパンジーは語る』紀伊国屋書店。プレマック『チンパンジー読み書き
を習う』思索社。オースティン『言語と行為』大修館。土屋俊『心の科学は
可能か』東京大学出版会。

《連絡: 『ポパイ』『ブルータス』『微笑』その他愛読誌の旧い号を捨てないで下さい》

§ [キーワード] インセスト・タブー 親族体系 交叉イトコ 限定／一般交換
<構造> ブリコラージュ 野生の思考 自民族中心主義

§ レヴィ＝ストロース Claude Lévi-Strauss 1907- ユダヤ系フランス人の人類学者
* サルトル、ボーボワール、メルロー＝ポンティらとエコール・ノルマルに学ぶ。
* サンパウロ大学勤務。南米ボロロ族などを調査。帰国して応召するも敗戦。
* アメリカ亡命。N.Y. でヤコブソンと交友。『親族の基本構造』(1949) 出版。
* 『悲しき熱帯』(1955) で構造主義ブーム。コレージュ・ド・フランス教授。
* 『構造人類学』(1958) 『野生の思考』(1962) 『神話論理』4巻(1964-1971) 他。

§ 前期: 親族研究 ←構造主義の出発点。斬新な見解にみんなびっくりした!
* 不思議な現象…交叉イトコcross-cousin婚が好まれる／父方vs母方交叉イトコの
対立/incest taboo (近親姦禁忌) の普遍性/オーストラリアの
婚姻規則/双分組織/親族名称法 kinship terminology
* 従来の見解……原始乱婚説 (マルクス主義) ; 未開心性説; 機能主義人類学etc.
* 親族体系の存在理由は、女性の交換 (=コミュニケーション) にあり。

限定交換: A⇔B vs 一般交換: A→B→C→……→A

§ 後期: 神話研究 ←集合的無意識の織りなす意味作用を解読する、野心的試み
* 分析の手順……①多くの神話を一連の変奏variationsとみなす。②各神話を形式
(二項対立) に分解。③変換の規則を発見。④それが<構造>。
* 料理の三角形 生まもの/火にかけたもの/腐ったもの ~母音・子音三角形
* 文学・音楽・映像・その他、意味現象全般の分析手法として歓迎された。

§ 構造主義 structuralisme の系譜
* 遠近法→射映幾何学→群論 (抽象代数学) →<構造> : 変換に関して不変なもの
親族研究も、神話研究も、このアイデアの応用とみてよい。
* ラカン (精神分析)、アルチュセール (マルクス主義)、バルト (記号学)、
フーコー (歴史学) らの登場。
* 構造主義～記号学の特徴: ×主観主義、×西欧中心主義、×歴史主義
* ポスト構造主義: 構造主義の「不徹底さ」を攻撃 クリステヴァ; デリダ; ドウ
ルーズ+ガタリ; リオタール; … ⇒ ???

§ 参考文献 レヴィ＝ストロース『悲しき南回帰線』中公文庫、『親族の基本構造』番町
書房、『構造人類学』『野生の思考』みすず書房。橋爪大三郎『記号×身
体=社会空間』『記号の死』(思考のレクチュール4) 作品社。

(1) これまで講義を聴いてみて、どう思ったか、○をつけて下さい。

とても やや ふつう やや とても

① 難かしい 分りやすい

② 興味がない 興味深い

③ 聴き取れない よく聞こえる

(2) これまで講義を聴いてみて、記号論とはどのような学問だと思ったか、思う通りを書いて下さい。

(3) 現在、あなたが関心をもっているテーマを教えてください(いくつでも)。

(4) これから講義でどんなテーマを取り上げたらよいか、希望を書いて下さい(なるべく具体的に)。

(5) そのほか、質問・意見・要望など、言いたいことのあるひとはなんでもよいから記入して下さい。

§ [キーワード] デノテーション(表示) / コノテーション(共示) メタ言語
モード 中心/周縁 モンタージュ理論 ポスト・モダン

§ バルトの記号論 Roland Barthes 1915-1973 フランスの批評家・記号学者。

- * イェルムスレウが、コノテーションの概念を導入。(ERC) → {(ERC) RC}
- **バルトがこれを、SA、SEで再定式化。E=SA C=SE コノテーション/メタ言語
- * メタ言語…ラッセルのパラドックス解決のため、数理論理学が依拠。×自己言及性
- **モードの分析 Mode=ファッション 衣類/着こなし〜ラング/パロール
- (1)現実の衣服/(2)モードの画像/(3)言語によるモードの描写 ⇒(3)を分析。
- * 服装等の分析には、オースティンの発話行為論のアプローチも有望と思われる。

§ 記号論の展開 日本記号学会 1980- 路上観察学会 1986-

- * 文学…ロシア形式主義 ヤーコブソン「ボードレールの猫」バルト『S/Z』
- * 神話…プロップ『民話の形態学』リーチ『文化とコミュニケーション』
- * 動物行動学…ローレンツ『攻撃』アイベスフェルト 今西錦司
- * 人類学…山口昌男『道化の民族学』中心/周縁 ギアツの劇場国家論
- * 映画…モンタージュ論(エイゼンシュテイン)メッツ『映画と精神分析』岩本憲児
- * 美術…イコノロジー ベンヤミン『複製技術時代の芸術』ポップ、ミニマル…
- * 音楽…バーンスタイン『答えのない質問』細川周平『音楽の記号論』環境音楽
- * 建築…ポスト・モダン 原広司『建築に何が可能か』磯崎新 多木浩二
- * 消費論…ボードリヤール『消費社会の神話と構造』商品〜差異の体系 広告分析
- * 社会学…ゴフマン『行為と演技』上野千鶴子『セクシィ・ギャルの大研究』
- * 上記のほかに…三浦つとむ・吉本隆明・柄谷行人・蓮實重彦・浅田彰。

§ 参考文献 バルト『神話作用』現代思潮社。『モードの体系』みすず書房。『表徴の帝国』新潮社。『映像の修辞学』朝日出版社。

《連絡：以前のレジユメは芸術学科資料室 G-316で配布中。今後の予定… 6.10 性別論
6.17 小テスト+態度調査 6.24 猥褻論。自由聴講の諸君を歓迎する。》

§ キーワード 半陰陽 真性/偽性- クラインフェルター症候群 ターナー症候群
性染色体異常 身体的/心的/社会的性別 gender identity 変性

§ 半陰陽(両性具有)者 hermaphroditeの事例

- * gender : (社会的)性別、性役割 ↔ sex : (身体的)性別、性行為
- * 養育上の性別と、身体的性別が矛盾するケース ⇒思春期までに「治療」の必要
- * 手術の方針…(1)養育上の性別/(2)身体的性別に合わせる (1)の方が予後が良い
- * 結 : 生後間もない時期に、幼児はgender identity を確立、以後は変更不可能。

§ 性別の種類と、それらが現れてくる順番

- | | 性別 | | |
|-----|------|------|---------------------|
| I | XY | XX | 染色体によるー ~性染色体異常・キメラ |
| II | 睪丸 | 卵巣 | 性腺によるー ~真性半陰陽 |
| III | 内性器 | 内性器 | 内性器によるー ~偽性半陰陽 |
| IV | 外性器 | 外性器 | 外性器によるー ⇐性別判定(出生直後) |
| V | 二次性徴 | 二次性徴 | 外観によるー ~身体加工・服装 |
| VI | <男> | <女> | 社会的性別 ~性別倒錯(いわゆる変態) |
- * われわれは、性別を一元的なもの信じがちである。しかし身体的性別の実態は、蓋然的にたどられる分化の過程といったもので、そのうえに社会的性別が重なる。
 - * XXY :Klinefelter症候群 XO:Turner症候群 XYY, XYYY:超男性 XXX, ……
 - * 性心理的な問題…(1)同性愛homosexuality (2)異性装transvestism (3)変性transsexuality これらは、I~IVの性別に直接関連なし。
 - * 社会的性別は、身体的性別に対して、恣意的。しかし有縁である(出産を含む)。

§ 性別現象を、どのように考察してゆけばよいか。

- * 性別の普遍性 これまでしられたどの社会でも、性別が見出される
↔性別役割[男/女の性別にどんな社会的役割を配当するか]は多分に恣意的。
- * (機能的性別による)女:人間を出産する可能性のある者、またはあった者。
(心的性別としての)女:母[人間を出産する者]を同性とする者 ↔男(Df.)
- * 異性愛/同性愛 ⇐他者の性別認知:全ての対人関係を、異性/同性関係で処理
- * Qすべての社会で異性愛は正則regular な形態。では同性愛は異常か?
- * 女性解放=女性であることの社会的・現実的な制約を、人間の本来の可能性から批判 ⇒Q人間が男/女であることは、どこまで本質的な現象か? ~恣意性

§ 参考文献 マネー&タッカー「性の署名」人文書院。フックス「風俗の歴史」光文社。
大島清「快楽の構造」中央公論社。フロイト「性に関する三つの論文」(選集5)日本教文社。橋爪大三郎「性別論」(未発表)「性別のありか」「生命科学と女性の権利」(「女性の社会問題」各号)

以下の各問の、指示に従って正しい選択肢をひとつ選び、解答欄を○で囲みなさい。

- 【1】 つぎのことがらのうち、ソシュールがのべなかったのは:
(1) ラング (2) シニフィアン (3) コノテーション
(4) 線的特質 (5) パロール
- 【2】 つぎのひとつのうちの、ソシュールの影響をうけていないのは:
(1) ヤーコブソン (2) トゥルベツコイ (3) レヴィ=ストロース
(4) パブロフ (5) イェルムスレウ
- 【3】 つぎのことがらのうち、プラーグ学派の音韻論と関係がうすいのは:
(1) 弁別特性 (2) 母音三角形 (3) 二項対立
(4) 音素 (5) トークン・ランゲージ
- 【4】 つぎの意見のうち、ソシュールの意見でないのは:
(1) 言語名称目録説 (2) 恣意性の原理 (3) 通時態/共時態の分離
(4) 言葉の意味≠対象物 (5) 記号の体系は差異・対立からなる
- 【5】 つぎの書物のうち、ソシュールの考えを弟子がまとめて出版した書物は:
(1) 「文法の構造」 (2) 「一般言語学講義」 (3) 「構造人類学」
(4) 「音韻論の原理」 (5) 「言語理論序説」
- 【6】 つぎのことがらのうち、レヴィ=ストロースと関係がうすいのは:
(1) 限定交換/一般交換 (2) 近親相姦の禁止 (3) 母方交叉イトコ
(4) 野生の思考 (5) American Sign Language
- 【7】 つぎのことがらのうち、構造主義と関係がうすいのは:
(1) 発話行為論 (2) 料理の三角形 (3) 代数学
(4) 神話研究 (5) 自民族中心主義
- 【8】 つぎのことがらのうち、チョムスキーと関係がうすいのは:
(1) 変形生成文法 (2) 普遍文法 (3) メタ言語
(4) 拡大標準理論 (5) 言語能力
- 【9】 つぎのことがらのうち、バルトと関係がうすいのは:
(1) 「モードの体系」 (2) コノテーション (3) デノテーション
(4) メタ言語 (5) モンタージュ理論
- 【10】 つぎのひとつのうちの、記号論と関係がうすいのは:
(1) ソシュール (2) レヴィ=ストロース (3) バルト
(4) サルトル (5) ヤーコブソン

切取り線

記号論入門・小テスト '87.6.17 解答欄					学籍番号					氏名				
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)					
【1】	■	■	■	■	【5】	■	■	■	■	得点 /100				
【2】	■	■	■	■	【6】	■	■	■	■	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
【3】	■	■	■	■	【7】	■	■	■	■	【9】	■	■	■	■
【4】	■	■	■	■	【8】	■	■	■	■	【10】	■	■	■	■

受講者各位

われわれが日常さらされている社会環境を記号論的に考察するため、以下の要領で資料の蒐集にご協力いただきたいと思います。

記

蒐集の範囲：「ポパイ」「ブルータス」「ノンノ」「微笑」「女性自身」など、市販されている雑誌、単行本であれば、なんでもかまわない。

- 蒐集の対象：①消費生活に関する記事……衣料・文房具・オートバイ・化粧品・その他の消費財について、そのうちのあるものを消費者にすすめるもの。なぜそのものがよいのか、それを購入するとどのようないいことがあるか、などがよくうかがえる記事がよい。
- ②対異性行動に関する記事……異性にもてる方法・嫌われない秘訣・デートコース・口説きの決まり文句・そのほか、読者に一定の行動を示唆するもの。具体的な行動の仕方と、その根拠がはっきりのべてある記事がよい。
- ③そのほか興味をひかれた記事……いわゆるハウ・ツーもの、ゴシップの解説、時代の解説など、受講者が興味をひかれたもの。記号論に直接関係があると思えなくても、面白ければよい。

提出の方法：①原則としてコピーを提出して下さい。

②コピーは一部ごとにホチキスなどでとじ、学籍番号、氏名を記入する。

*③第1ページには必ず以下のように記入して、出所を明示すること。
例)「PCマガジン」第5巻第10号(通巻39号) pp. 78-80.

1985年10月号 発行・ラッセル社(発売・新紀元社)

④記事に対する感想を、数行でもよいから記入することが望ましい。適当な紙に書いて、第1ページに貼りつける。

⑤なるべく夏休みまでに、教室で提出する。それ以後提出してもかまわない。郵送でもよい(248 鎌倉市材木座 5-9-11)

採点の扱い：出席点として考慮する。点数が多かったり、記事が面白かったり、感想がすぐれているものは、それなりに考慮する。

たまたま手元に雑誌がないひとや、この種の記事に興味のないひとは、わざわざ雑誌を購めて無理に提出する必要はぜんぜんありませんから、心配しないで下さい。以上。

橋爪 大三郎

この調査は、記号論入門の講義の内容(性現象の記号論)に役立てるために、皆さんの協力をお願いするものです。無記名です。性別欄には○を記入してください。問題の性質上、個人のプライバシーに立ち入る質問も含まれています。調査の信頼性を損なわないため、答えたくない質問があったら、でたらめに答えたりせず、NAに○をつけて下さい。

記入がすんだら、解答もれがないか確認してから、封筒に入れて、提出して下さい。

[1] あなたは、性に関する知識を、おもにどの時期に身につけましたか?

- (1)小学校 (2)中学校 (3)高等学校 (4)大学 (5) NA

[2] あなたは、性に関する知識を、おもに何から知りましたか?

- (1)学校の授業 (2)親 (3)きょうだい (4)友達 (5)雑誌(誌名))
(6)本(書名) (7) NA

[3] あなたは、性に関する知識・情報を、話題とすることがありますか?(幾つでも○)

- (1)親と (2)きょうだいと (3)同性の友達と (4)異性の友達と (5)話さない (6) NA

[4] あなたは、異性に対して、自分からつぎの行為をすることができますか? 該当する欄に○をつけて下さい。

	絶対できない	できそうもない	わからない	できる	平気	NA
①通りすがりの異性に声をかける	・	・	・	・	・	・
②たまたま知合った人の電話を訊く	・	・	・	・	・	・
③友人を介し交際して欲しいと頼む	・	・	・	・	・	・
④何か用事にかこつけ電話をかける	・	・	・	・	・	・
⑤映画等と一緒にいかないかと誘う	・	・	・	・	・	・
⑥交際して欲しいと直接相手に頼む	・	・	・	・	・	・
⑦キスして/キスさせて、とせがむ	・	・	・	・	・	・
⑧恋人等をホテル等に誘う(最初)	・	・	・	・	・	・
⑨恋人等をホテル等に誘う(n回目)	・	・	・	・	・	・
⑩結婚を申し込む	・	・	・	・	・	・

[5] あなたは、恋人ではない異性の友人とのあいだで、つぎのような行為をしますか？
 する場合には○、しない場合には×、NAなら△を記入して下さい。

- ①ふたりで映画などを観に行く () ②ふたりで日帰りのドライブに行く ()
 ③手をつないで街を歩く () ④ペア・ルックの服装をする ()
 ⑤夜中などに電話で長話する () ⑥相手の家にひとりで遊びに行く ()
 ⑦ちょっとした贈り物をあげる () ⑧キスをしたり抱き合ったりする ()
 ⑨深刻な心の悩みを打ち明ける () ⑩セックスする ()

[6] 中学生の頃？にA・B・C…といった言い方を聞きましたか？ 聞いた・聞かない
 (一つに○) それぞれ、どんなことをさすと思いますか？ NA

A… B…
 C… (D…)

[7] あなたは今までに、恋人としてつきあった異性がいますか？ いる・いない・NA
 (一つに○) いる、と答えなかった人は、下の☆印にとんでください。

(問い——いる、と答えた人だけ) 昔の恋人から順にひとりずつ、例にならって、交際の経過を記入して下さい。よく覚えていることだけでかまいません。

- 記号…①出会い ②親しく口をきく ③デートする ④手を握る ⑤キスする
 ⑦衣服の上から相手に触れる ⑧衣服を脱いで相手に触れる ⑨性交する
 ⑩同棲する ⑪婚約する ⑫結婚する ⑬熱が冷める ⑭わかる

例1… ①—②—⑤—⑭ (出会って1時間で親しくなり、2ヶ月してキスする
 1H 2M 3W 仲になったが、その3週間後に別れてしまった)

例2… ②—③—④—⑪ (2年ごしの友人とデートし、2日後初めて手を握り
 2Y 2D 0H その場で婚約、今日にいたる)

—	—	—	—	—	—	—	—	NA
—	—	—	—	—	—	—	—	NA
—	—	—	—	—	—	—	—	NA
—	—	—	—	—	—	—	—	NA

☆あなたに恋人がいない理由はなんですか？ (いくつでも○)

- (1)チャンスがない (2)もてない (3)よいひとがない (4)恋人がほしくない
 (5)時間がない (6)異性に興味がない (7)その他の理由… (8) NA

§今日のキーワード

羞恥心 笑い 猥褻部位 社会的文脈のとり違え 猥褻三条
 公然猥褻 強制猥褻 猥褻図画 四大猥褻裁判 ポルノ解禁

§猥褻とは何か

- *猥褻観念の二重性：ワイセツ=けしからんこと/性的エネルギーは社会に必要
- *猥褻現象の普遍性：どんな社会にも猥褻観念はある。人間の衣服⇔羞恥心⇔笑い
論理的行動主義~×羞恥心ゆえに衣服を着る○衣服を着るから羞恥心が生ずる。
- *猥褻現象の中核=生殖器 猥褻部位は、文化相対的だが、有縁(←→恣意性)
ところが、なぜ生殖器が猥褻なのか、説明がむずかしい。Cf. 中山千夏主義
- *猥褻現象とは、社会的文脈のとり違えである 公然/私秘 性的身体のとり扱い
猥褻の摘発には、公然性(第三者の視線)が必要 性的行為の禁止/許容

§猥褻と法

- *刑法 174条〔公然猥褻〕公然猥褻ノ罪ヲ為シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ……。
- 刑法 175条〔猥褻物頒布等〕猥褻ノ文書、図画其他ノ物ヲ頒布若クハ販売シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ……。販売ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ。
- 刑法 176条〔強制猥褻〕十三歳以上ノ男女ニ対シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行為ヲ為シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ処ス十三歳ニ満タサル男女ニ対シ猥褻ノ行為ヲ為シタル者亦同シ。(178条~準強制猥褻・準強姦)
- *現行刑法の猥褻三条は、そのレベルを異にする規制を含んでいる。

§猥褻と表現

- *猥褻裁判 ◇D. H. ロレンス「チャタレイ夫人の恋人」◇サド「悪徳の栄え」
◇伝永井荷風「四畳半襖の下張り」(「面白半分」所載)
◇大島渚「愛のコリーダ」 “猥褻か芸術か” ⇨ “猥褻でなぜ悪い”
- 判例：わいせつとは「いたずらに性欲を興奮又は刺激せしめ、且つ普通人の正常な性的羞恥心を害し、善良な性的道義観念に反するものをいう。」(チー夫人)
- *猥褻はなぜ不法(刑事罰の対象)となるのか? Cf 近親相姦・賭博・麻薬
- *エロティシズム……猥褻と判定されない範囲での、性的表現。
ポルノ解禁：猥褻表現それ自体を法的規制の対象とせず、当事者の合意にゆだねること。(広告その他、合意のない第三者への規制は強化)

§結論

- ①他者に対する性的働きかけには、社会的な規制が関与する。→猥褻観念
- ②猥褻に関する規制には、実体的な根拠が一切ない。⇨性関係の二項対立 W/W

§参考文献

- 「愛のコリーダ」起訴に抗議する会編「猥褻の研究」三一新書865
- D. モリス「裸のサル」河出書房新社。橋爪大三郎「性愛論」(未発表)。
- 「売春のどこがわるい」「女性の社会問題」vol. 4

《すでに指示したレポートは、教務課のレポートBOX に提出してよい。7月15日は補講》

§今日のキーワード 批評の不幸 外在的/内在的批評 規範的批評 上部構造
社会主義リアリズム 構造主義批評 記号論的批評 表層批評

§批評とはなにか

- * 批評：ある作品に固有な、評価的言説を生産すること。 ←単なる鑑賞
- 批評は、ただの感想以上のものであるため、一定の方法に基づかねばならない。
- * 批評は不幸である。ただ作品を鑑賞していればよいなら、鑑賞の仕方をとやこう言われるすじあいはない。しかし批評は、「正当」なものでなければならぬから、その根拠を問われ続ける。批評は鑑賞の役に立たない余計な作業だ(?)。

§批評のいろいろ ⇔ 適当な分類だから、あまりまにうけないこと。

- * 外在的批評：作品に内在せず、まったく別の論拠から作品に評価を下すもの。
 - ①規範的批評 例)「性描写が露骨だ」「女性を蔑視している」「刹那的」
 - ②政治的批評 例)「ベトナム戦争への怒りを表現しているからよい」
 - ③実利的批評 例)「難解で大衆受けしないからだめ」「でも売れたからいい」
- * 内在的批評：いちおう作品にもぐりこみ、作品の真実を捉えようとするもの。
 - ④印象批評 例)「なつかしい感じ」「モーターボートがかっこいい」
 - ⑤古典的批評 例)「作者は思春期の性の悩みを表したい」 内面⇒表現
 - ⑥環境決定論的批評 (1)実生活主義 例)「作者の苦しい幼年時代を髣髴とさせる」 (2)社会主義リアリズム 例)「疎外された人間関係と資本主義社会への憤りがよく描けている」 階級関係⇒観念世界(上部構造)⇒作品
 - ⑦分析批評 例)「母に対する屈折したエロスの願望が投影されている」
 - ⑧構造主義批評 例)「老婆(母)/女医 :: 主人公/きつね面の少年」
 - ⑨記号論的批評 例) (1)コマとコマの接続関係(サンタグム)の分析 “マッチ・カットの原則” 新情報/旧情報 (2)神話学的分析 切断→結合 …。 そのほかいろいろ考えられるが、まだ確立していない。
 - ⑩表層批評 例)「主人公はずっと歩いている」「自分で乗り物を運転しない、運転手は匿名」「朽木の肌目/機械/皮膚の表面⇒ねじによる統合」

§結論：「記号論」をちょっとかじったからといって、すぐ作品分析ができるほど甘くないということ、肝に銘じるべきである。

§文献 つげ義春「つげ義春作品集」青林堂、「夢の散歩——つげ義春新作集」北冬書房、「必殺するめ固め——つげ義春漫画集」晶文社、「つげ義春とぼく」晶文社、「つげ義春流れ雲旅」旺文社文庫、「ねじ式——異色傑作撰1」「紅い花——異色傑作撰2」小学館文庫。

《連絡：7月8日はエイゼンシュタイン監督「戦艦ポチョムキン」を上映。それまでに、岩本論文を読んでくること。7月15日は「ソシュールの記号論」の補習とする。》

§年譜 1905 首都ペトログラードで血の日曜日 第一次革命
1917 ロシア革命 10月、ボルシェビキ、政権を握る。
1919 レーニン(～1924)、帝政下の古い映画産業を国有化する政令に署名。
1929 トロッキー追放、スターリン独裁を確立。

§解説 (G. サドゥール「世界映画史I」みすず書房：157-159. より抜粋)

クレシコフの友人マヤコフスキーは、若き舞台演出家エイゼンシュタインにそのアヴァンギャルド評論誌「レフ」を開放したが、その誌上でエイゼンシュタインはヘイトラクシヨンのモンタージュなる新しい手法の効用を宣言した。セルゲイ・ミハイロヴィッチ・エイゼンシュタインは、技師となる勉強をした後、画家になろうとした。赤軍に参加した彼は、そこでポスターを描き、ついで舞台装飾を描き、さらに演出家となった。……

その後間もなく彼は長篇劇映画の第一作『ストライキ』を演出した。この作品で彼は、ロシア皇帝治下における工員たちの虐殺と屠殺場で撮影されたばかりの屠殺される動物のショットを交錯させながらアトラクシヨンのモンタージュを適用した。

『ストライキ』はその混乱した物語にも拘らず注目を集めた。政府は一九〇五年の革命を記念しようと望み、ラズムニ、ヴィスコフスキ、チャイコフスキといった老練な映画作家と並んでこの二十歳の新人監督に映画の製作を命じた。

『戦艦ポチョムキン』はオデッサ市で数人の俳優、オデッサ市民と赤軍艦隊を使って数週間で撮影された。この作品でエイゼンシュタインは、十月革命の直後プロレタリアがその集団のパントマイム劇のために設立した慣例に従い、一万人もの人間を集結させたこれらの歴史的事件の再現に市民を参加させたのであった。

『戦艦ポチョムキン』は、ある程度まで、二十年前にアルフレド・コリンズ、フェルディナン・ゼッカやリシアン・ノンゲが演出したと同じような映画風に再現されたニュース映画であった。エイゼンシュタインはこの作品ではそのヘイトラクシヨンのモンタージュの使用を断念しなければならなかった。しかし、ヴェルトフとアヴァンギャルド演劇理論の影響のもとに彼は、撮影所、メイクアップ、セットそれらほとんど俳優の使用を拒否した。彼の映画の主人公は群衆であり、俳優たちは知的な端役にすぎず、革命の指導者たちも単なるシルニットにとどめられた。

主人公としての群衆は或る種の混乱を惹き起こさざるをえなかった。しかし、厳密に年代順で歴史的な物語を非常に明確に構成した脚本は、緊密に結びついた二つの集団的登場人物である「戦艦」と「市街」を創りだしていた。ドラマはそれらの対話と結合から生みだされていた。

『戦艦ポチョムキン』のクライマックスはかの有名な階段上の銃殺のシーンである。このシーンは、現在生存している撮影監督は恐らく最高のエドワード・ティッセが見事な構図で撮影した映像を厳密に劇的にモンタージュした点に負うところが大きい。名詞華集ともいべきこのシーンは、アヴァンギャルド文学演劇理論にジガ・ヴェルトフとレフ・クレシコフの理論を結びつけ、それを彼自身の天才的才能によって作り直したエイゼンシュタインの様式の完璧な見本である。群衆は、その性格づけに対する無類の優れた感覚によって選ばれた顔のクロースアップあるいは挙動や衣裳の細部描写によって個性化されている。(映画眼)は(即興的にとらえる)ことを教えたし、「生きたモデル」は、長靴、階段、鉄格子、サーベル、三つのライオンの石像といった表現力豊かな物体と交互に画面に現われている。そして、エピソードは、息子の屍骸を抱きかかえる母親、階段の上を独りで降りて行く乳母車、鉄の鼻眼鏡の下で血を流している抉られた眼といった激烈で悲痛なヘイトラクシヨンの一つ一つ強調されている。これらの理論の行き過ぎ或いは非人間性は、ロシア革命の国民的躍動とエイゼンシュタインの誠実さ、激しさ、憐憫の情、人間的温さ、怒りによって押し流されている。

『戦艦ポチョムキン』はソ連以外では到る処で検閲により上映を禁止された。しかし、到る処で人たちが集ってこの映画を秘かに觀賞した。各地のシネマテークが保存したかったこの傑作の爆発的な力強さが抑圧しようとする権力によって倍加された。この映画はチャプリンの作品を別にすれば急速に他のいかなる作品よりも有名になった。ゲッベルス博士は、数年後にナチス一色に塗りつぶしたドイツ映画界に新しい「ポチョムキン」を作るよう命令することによって、心ならずもこの作品に敬意を表さざるをえなかった。

《連絡：秋は9月30日再開。上映に協力いただいた石川、後藤、滝沢、杉本、森本の諸氏に感謝。》

□1□ 予想以上にレポートが集まり、感謝する。つげのマンガの持つ魅力に負うところが大きいと思う。レポートはおおむね、この作品に好意的であった。ただ中には反撥を示すものもあった：《ぜんぜんわかりません。…コンナマスターベーションマンガを見たのは初めてです。》（トシチャン）、《この作品に関してはどうしても否定的なのです。》（大徳寺） また正直に《よくわからなかった》（62A後藤文）《今回は素直にわからないといひましょ》（61A森本） というものも目立った（62A小林均）。レポートのスタイルは、講義の趣旨をふまえ、この作品の本質になんとか迫ろうとしたものが多く、意気込みをかうことができる。あらすじ要約を付したのもあったが、今回は不要。

□2□ つげの「あとがき」を付したので、それに触れたものが多かった。《あとがきに「夢がヒント」というのを見て、なるほど…?と思いました。》（AMB）《この作品に流れるリズム（展開のテンポ）はまさにユメのリズムに類似しております》（つる川たろう）。またこれを、シュールリアリズムと結びつけるコメント（62A小林基）も散見した。反対に《本人は…昔見た夢だと云っているが本当は違うと思う。最初にストーリーを考えずに絵をきょうに描き、その後、セリフを入れたのだ》（ヘンリー・スペンサー）という穿った意見も。《夢が、マンガという表現されたものになった場合、それは意識的に、理性によって創造されるから、夢そのものでない。…夢には“ねじ式”という題はついてなかったろうし、場面々々が全部四角形な夢というものもないだろう。…無意識でのつげ氏が原作で、それを意識あるつげ氏が解釈し、作品化したのが“ねじ式”だと考えられる。》（61A正木）が、まったく正当。

□3□ ストーリーの展開は、意外性をもって受け止められたようだ。《内容はすべて読み手が想像する可能性をほとんど裏切って…》進む（61H島崎）。だが、それを突飛なものや片づけず、《人間なら誰でも、発表作品に「ねじ式」を加えることができる》（61H大川）と、共感の対象とした人が多かったのは喜ばしい。《漫画の大半がテレビ的…であるのに対し、つげ氏のものは映画的である》（ヘンリー・スペンサー）という指摘に賛成する。《1コマ1コマが額ぶちに入った美術画のよう》だ（62A小林均）。映画的とは、コマとコマのつながりが問題だということ。《映像記号には、「そして」「だから」…「しかし」…とかいう接続詞…などのコブラがない。…読者が、コブラにあたる意味をつくり、補っていかねばならない》（62A永田）のは、重要な基本的事実。しかるに《場面には関連性がなくストーリーの流れを形成していない》ので、そこからシュール（超現実的）な効果が生ずる、という（62A松本）。そういう要素もこの作品には濃厚だが、それでもここから一貫した主題を探りあてることができるのではないかと多くの諸君が頑張ってくれた。

□4□ 全体の構成だが、《この作品は4つの場面に分けられる。一、最初から9ページまで。クラゲに刺されて村中を探し歩く/二、10ページから15ページまで。少年の運転する汽車に乗りドライブする/三、16ページから19ページまで。再び村に戻り、金太郎アメのビルにたどりつく/四、20ページから最後まで。医者に治療してもらう》（62A松本）の区分がおおむね妥当。細かくみる場合には、冒頭と最後の海の部分を独立させる（ともに村外）。ストーリーの設定に関しては、《まず作品の内容通してある状況設定として、“静脈切断”がある。…切断→結合が主人公の命の危険→命の安全を意味し、その過程のなかに物語が展開されている。私はこの過程を、“汽車に乗る”場面、“金太郎アメ売りのおばあさんとの会話”の場面、“産婦人科の医者”との場面、以上3つに分けてみた。3つの場面とも、…切断→結合とは無関係の行為、会話が大きく表現されている。》（61A正木）でよいが、これに村中を探し歩く場面を加えてもよいかも。主人公が《冒頭海から上って来て最後に海へ帰ってゆく》（62A滝沢）のも重要なポイント。海を《これから先出て行く社会》（62L今泉）とみるのも悪くない。

《主な登場人物は次の3人である…。主人公の青年/金太郎アメ屋の老婆/産婦人科の女医》（62A滝

沢）のも妥当な線で、《一時的に家の中の息子の嫁、姑、息子という関係ができたように見えた》（62A滝沢）という指摘も面白い。ただ、細かく言えば、汽車の少年なども落とせないし、後でみるように、老婆と女医の関係も、実は一筋縄でない。

□5□ 順に見ていこう。冒頭のシーン。主人公とおぼしい青年が海から上がってくる。《年齢不詳の主人公》（62A大川）という指摘が重要。自己同一性（=自分は何者だ?!）が脅かされている。参考図の人物と比べ、容貌に独特の幼形と凶暴さが認められる点に注意。印刷が鮮明でないが、実は上空に黒い飛行機が飛んでいる。（飛行機に言及したのはトシチャンのみ。）このため、発表当時（ベトナム）戦争と関連して理解するむきもあったのだが、《そのようには見えません。誰の夢とも変わりない》（60A匿名）としてもよいだろう。ただ、主人公のうえに得体の知れない不安の蔭が落ちているのは確か。

《クラゲ…はかむ生きものではない》（62A神崎）のに「噛まれた」とあるのはたしかに妙（61A森本）。ただしそれを、《不気味な感じをもたせる》（62A神崎）というように、作者の意図的な表現行為とする（62L石川）（62A鈴木）のがよいか、留保したい。メクラゲに噛まれた傷を《成長しつつある青少年》の《心理的な傷》（60A蕭）あるいは《挫折》（62L今泉）とするのは順当。主人公はいわば、自我の内部の大きな欠落、埋めようのない空白を自覚し、それに耐えながら生きはじめる。その欠落の内実をどう読み取るかは、読者の勝手には違いないが、《ケガとは作者の性欲がみたされていないというもの》（62L石川）のように、傷=性欲と断定（62A鈴木）（62A神崎）（60A荘）する人が多かったのは、解釈が限定されすぎる気がする。「シリツ」の場面との照応を考えたのではあろうけれども。

《真っ赤な血と真っ白な洗たくもの、日の丸（白と赤）、床屋（白、赤、青の目印…）》（61A森本）と、色彩に対する言及があったのは嬉しい。じつは、「ガロ」初出版では、朱と黒の二色刷で、大変衝撃的で怪しげな効果をうんでいた。

□6□ 見知らぬ漁村で、主人公は医者を探す。主人公の命に関わるというのに、無関心な村人たち。この疎外状況に時代を読み取ろうとした諸君も多かった。《現在の社会で、彼はアウトサイダー》である（62L今泉）。《やりとりの部分のまわりくどさ…ネジまわしをもった男は、物知り顔の大人一般、役人、または“国”というイメージと重なります》（61H北嶋）。なお、この背広の中年男が《女医と同じねじ回しを持っていたので医者だったかも》しれない（62L今泉）というのは面白い。

会話にも関心が集まった。《あえて裏にある意味をとらえようと試みた方がよさそう》だとして、全編にわたる会話テキストを一貫して読解した試み（60A蕭）はユニーク。また、《この漫画は始めから、あまり会話が成立していない》（61H島崎）という指摘は、いい線をついている。ただしこれには、反対意見もある。《この作品には、個人言語が多くでてくる。「先生!」「シリツをして下さい」「ここは男のくる場所ではありません私は産婦人科医ですもの」この3文で2人には通じるところがあった。…個人言語でなく、いつのまにか2人で共有できるものになっている。》（62A永田）なぜ意思が疎通してしまったのか、後半の鍵となろう。さらに、シリツ、テッテ的、イシャなど《カタカナを効果的に使用している》（62A小林基）点にも注目すべき。「テッテ的」は60年代の流行り言葉。「シリツ」は（母を意識しての）舌足らずな幼児語であろうが、この点誰からも指摘なし。主人公が倒れて叫ぶ「イシャはどこだ!」のコマ（p9）の背景を、労働者のデモではないかとする意見もあったが、ラッパを持っていて楽隊にしか見えないから、これは無理。

□7□ 線路を歩いて隣り村のほうへ。歩きづらい道を《一人ぼっちで生きていくのがなんと…つらいことでしょう。》（60A蕭）と解することは可能。《主人公の男は最初からズーッと歩きつづけている。》（トシチャン）というのは、とても重要な指摘。折りよくやって来た汽車にはキツネ面の少年が乗っている。《“主人公の青年”が利用する乗り物は、彼以外の人物が運転している。…そのどちらかが顔がかくされているところが共通している。》（62A滝沢）という指摘にも、とても感心した。SLや夜の

闇が《銀河鉄道の夜を思い出させた》(61H島崎), 《アニメ映画「銀河鉄道の夜」を思い出した》(61A森本) というのも、自然な連想。賢次の銀河鉄道では死が隠れた主題となっていた。一昨年のアニメは逆に、つげの「ねじ式」からヒントを得たふしがある。運転する少年は幼時の主人公自身と思われるが、この点の指摘はなかった。また、もとの村へと逆行する汽車は、主人公の退嬰的でretrospectiveな動機を暗示すると思うが、この点も指摘がなかった。目をつぶると逆行して感じられる法則のくだりを、《トリックを使って実際とは違ったことを思い込ませている。しかも…小学校教育ですでに教えられている》(61H北嶋)と、教育のイデオロギー機能と捉えた理解は、ユニーク。ただし、やや無理。「こどものくせに命の恩人だ」を、逆説ととる解釈もあったが、少々無理。

□8□ 金太郎アメの老婆と出会う。老婆は(ほぼ確実に)主人公の母であるが、それは逆戻りする汽車に乗ったために逢うことができたのだ。《この作品には(無駄な表現が)ほとんど無い。列車に乗っているシーンは全く無駄だと思う人がいるかもしれない。しかし、それによって、風鈴を見つけ、母の存在を明らかにすることによって、金太郎アメのおばさんの意味がより強くなってくる。》(62A小林基)というが、もう一步の突っ込みが欲しい。ところで、金太郎アメとはなにか。その製法の秘密(桃太郎のデザイン)とは? 諸説が提示された。《桃太郎も金太郎もたいしたちがいはない》(62A鈴木), 《金太郎あめのような終りのない、どこまでいってもどこで見直してもそれはいつも金太郎あめで…変わらないという普遍的なる事実》(62H渡辺), 《金太郎アメはどこを切っても同じ画一的で…何でも大量生産で平均化され…画一的になってゆく近代社会の様相を暗示している》(61H北嶋)。伝承によると、金太郎も桃太郎も、母がいない。日本の代表的文化英雄だが、それに対し、アメ=アメリカ、という連想もあるかも。語呂あわせから、《ポケンのキンで金太郎》(62A森本)なのだと言えたりする(62A小林均)。

年老いた母は金太郎アメの秘密を隠している。これを結局洩らしてしまった、とする解釈(62A鈴木)も、可能。“なるほどポケン”=《少年が啓示されて、やっと理解できる》(60A蕭)と考えるのも面白い。老婆が儲けたのはどうしてか。《「性」という病を治療するためにできた病院とすれば、たぶんこの病気にかかる人が多いだろう》(60A蕭)との解釈も一理あるが、《アメ工場と機関車は、高度経済発達期における日本の地域変動では、ないでしょうか》(つる川たろう)と考えるほうが、この作品が広く受け入れられた時代背景や人びとの無意識を、うまく拾い出しているようだ。こののち少年は老婆(母)とわかるが、それを《少年から大人に》(62L今泉)成長することと解するの可。

□9□ 年老いた母(?)から女医の所在を教えてもらったところで、死の恐怖が薄らいでいく。あるいは、性的な動機にすりかわってしまう。死んでしまったから死の恐怖がなくなった、と解釈したひとがいたが、ちょっと無理。医者が見つかったから、あるいは別の恐怖に思い至ったから、恐怖が薄らいだわけだ。思えば死の恐怖が、ストーリーを導いてきたのだった。《この死の恐怖には、二つの側面がある。圧迫感と解放感である。》(60A佐藤)この指摘はなかなかの卓見。切迫する死が、彼を行動的にし、局面をつぎつぎ展開させている。

ところで、死をものぐさもうひとつの恐怖、とは何か。《生きることの不安や苦痛にたえることが人間にとって精神面では、死よりずっと恐怖なのではないでしょうか。》(つる川たろう)なるほど、死は生と対立するわけだが、ここはすんなり、狂気へのおののき、この世の不条理のなかで脆い自我を支えかねている実存的恐怖と解するほうが自然。《死と言う物は…背中の方からだんだんとくる物で、本人が気づかない…ことが多い》のに対して、《巨人になっていく》場合は《自分が…ひしひしと気づいて行く》(62A鈴木)という対比はなかなか面白いが、もう少し突っ込みがほしい。この件りを《悩みをなくす方法を見つけたのでほっとしました。》(60A蕭)と解するのは、少々無理。《平和というオブラートにくるまれたような恐怖》(61H北嶋)というのは、やや飛躍あり。作者つげ氏は、ノイローゼ気味で、精神的に不安定な日々を送っていたわけでもあり、生きる実感がつかめないまま正気を失ってしまいそうな孤独な恐怖、位でよい。

□10□ さて、女医の正体が問題である。まず、老婆が母だとして、女医は老婆と別人か。別人説はつぎのとおり。《彼の母にはすでに傷ついた息子をいやしてやることはできない。それができるのは母親以外の女(産婦人科の女医)である。》(62A滝沢)これが常識というものだが、この作品には隠微な倒錯の匂いがある。そこを見逃さず、《なんとなく「ほく」というのは手術中に女医から生まれたような気がする。女医が母親で、ビルのおばあさんは年とった女医ではないだろうか。》(61H島崎)とは、じつに鋭いコメントだ。この同一人説に対して、中間説もある。《母の代わりとも言える女医…》(62L今泉)《本当の「母」がいるということは彼にとって不快なこと以外の何物でもない。…恐れを知らぬ彼は、思い出の中の母を求めてゆく。…産婦人科という自らが存在する最初の場所において。》(62H渡辺) 私は同一人説を推したいのだが、この最後の指摘が面白かった。産婦人科の女医を主人公の性欲の対象と把握するコメントが多かった(62L石川)(60A蕭)が、それよりも奥行きがある。

《シリツというのは手術、それも女医との性交》(62A神崎)だが、「お医者さんごっこ」というように、主人公の幼児性に呼応する形でいい表されている。そしてそれは、成功する(《性交=成功》(60A蕭))。女医ははじめ、大日本国防婦人会のような堅固な道徳を身にまとって登場しているのだが、この点の指摘はなかった。《海に見える光の当たる場所に》座っていて、救済の《希望》を表す(62L今泉)ともみえるほどだが、つぎのコマから様相が一変する。女医はほとんど《玄人》(60A荘)にも見える。主人公は女医の首を締めるという攻撃性を示す(p23)が、誰からも指摘なし。手術は〇×方式を応用したものだという。《〇×方式というのは…ねじ式のこと》(62A神崎)(62L石川)だろう。試験の〇×式の連想から《きまっている知識や方法》(60A蕭)との指摘があったが、《××クラゲといっしょで、読者に対する効果》(62A鈴木)を狙っただけ、というのがほんとうのところかもしれない。

□11□ ねじをつけた主人公は、モーターボートで海上を疾走する。彼は助かったのだろうか。《このねじは、性欲をコントロールするねじである》(62A神崎)とする意見が多かった(62L石川)(62A鈴木)。するとラストは、《新しい人生に歩いていきます》(60A荘), 《未来への旅立ち》(62L今泉), 《少年にとってなんともいいことでしょう》(60A蕭)といった、ハッピーエンドになる。しかし、苦々しい結末ととる意見もあった。《主人公は、死の恐怖からモーターボートで去ってゆく。匿名の操縦士が操縦しているのは、そこにはもはや、死の解放感が存在しないからだ。》(60A佐藤)死の解放感かどうかは別にして、彼はシリツの代償としてなにかを失ない、そのため後遺症(手の痺れ)をかかえているのではないか。だから、《彼は幸福であり、かつ不幸である。》(62H渡辺)とする両義的解釈に賛成する。《人体を最終的にはメカニックに…治療した事により、なにか機械的、無機質な臭いがただよう》(62A永田)。主人公は今後、機械をつながれたような異和とともに、生き続けるほかないのであろう。作品《全体としては、近代社会のあらゆるひずみに対する警告、暗示…と…とらえ》(61H北嶋)るの可。

□12□ 最後に作品の分析・解読について。《作品としてはよくわからない。》(ヘンリー・スペンサー), 《あまり考えすぎると明日からの生活に問題》(62A小林基)と、半ば匙を投げるものが多かった。それに、あれこれ解釈したところで、《思ったことが本当に作者の表現していることと合致したかどうか…わからない》(61A森本)と、心配にもなる。そこを、《解釈はあくまで本人(読者)に任されている》(61H北嶋)と割り切るのも一法ではあるが、そんななかで、《これを分析することは自分自身を分析することでもある…。だから戦争体験のある人には戦争のかけをそこにみとめたのだと思います。》(60A匿名), 《この作品を見て感じた自分の心を分析した》(62L今泉)というのは、なかなかよい洞察である。そもそも分析に対する不信を表明し、《この作品はやはり不条理で不可思議な話として素直に読む方がよいと思う。》(61H島崎), 《作者の世界に身をひたしているのが一番気持がよい》(61H大川), 《感性自体を楽しむ作品だと思います》(大徳寺)とする諸君の言い分も、もっともではある。しかし記号論の立場から言うと、解釈や分析も広いいみで作品の一部なのだ。今回の試みも「ねじ式」の表現世界の拡がりとして味わうべきものと言えよう。作品とその解釈・分析とを峻別する必要はない。〔了〕

小テスト

〔問題〕(1)日本語で、「山犬」という言葉がある場合とない場合とで、「野犬」という言葉の価値にどのような違いがある(ない)か、説明せよ。

(2)統合(syntagme)と範列(paradigme)について、説明せよ。

(3)共時態と通時態について、説明せよ。

〔解答例〕

(1)……便宜のため、〈四足でワンワン吠えるもの〉の全体を固定できるとして、その内部での意味の分節を考えよう。かりにその内部が、「犬」「野犬」「山犬」「狼」の4つの言語記号によって、完全に分割されているとすると、「野犬」という記号の価値は、他の記号(「犬」「山犬」「狼」)との差異と対立によって画定されているはずである。だから、この記号の体系のもとで「野犬」といえば、それは必然的に、「山犬」でない、というみである。ところが、なにかの理由でこの体系から「山犬」という記号が脱落してしまうと、各記号の価値が変化して、もとの意味空間を分節しなおすであろう。そのあとでは、同じく「野犬」といっても、それは「山犬」でないというみにはならない。すなわち一般に、記号表現(SA)を構成する物質的素材が同一であるか否かに関係なく、その記号内容(SE)がどのようなものであるかは、他の記号を含む体系全体のなかで決定されるのである。

(2)……言語記号は、自然な制約にもとづいて、要素的な単位が線状に配列された構成をもっている。ここで、相前後して線状に配列された要素的な記号同士がどのような秩序のもとに置かれるかを考察するのが、統合論であって、いわゆる「文法」に相当する。これに対して、現にある要素的な記号が用いられたとして、これと、そこに用いられた他の諸記号との(潜在的な)関係を考察するのが、範列論である。いわゆる「語彙」論が、これに含まれるが、言語記号のどのレベル(音韻/形態素/……)を考えるかによって、分析は多様である。このふたつの分析軸は、いわば互いに直交している。

(3)……一般にある記号体系は、時代とともに変遷していく。記号体系は、ラング(社会的に確立された制度)であることによって、ひとびとのあいだに意味的世界を樹立することができているわけだが、この側面からみると、各人を拘束する固定した秩序であって、(少なくとも短期的には)変更不可能である。この側面を抽象し、ある一時点における記号体系の秩序(共時態)を取り出して考察するのが、共時的分析である。これに対して、時間のなかで変遷しつつある記号体系(通時態)を考察しようとするのが、通時的分析である。ソシュールは、通時的分析が単なる歴史主義に陥ってしまわないために、まず共時的分析から実行すべきことを説いた。

〔答案を交換し、各自採点・署名のうえ提出せよ。秋は9月30日再開。内容は掲示の予定。〕

§今日のキーワード

資本主義 アダム・スミス 視えざる神の手 賃労働 労働価値説
カール・マルクス 共産主義 イデオロギー プロレタリア独裁

《現代社会もそこにみられる記号現象も、資本主義のありかたをもとに理解すべきだ!》

§資本主義とはなにか

←自分の社会の特徴をわかっていない人が多い。

- * 資本主義の定義 ×金儲け主義 ×商品交換 ×消費社会 ×科学技術の発展 ○組織原則 産業革命(1760年ごろ～) 囲い込み⇒農村共同体の解体⇒都市無産労働者 +土地+資本
- * 「諸国民の富」(1776) by Adam Smith 分業の利益 各人の営利追求の結果、各人にとって望ましい状態(パレート最適)が実現する!(視えざる神の手)
- * リカルドが、英国古典派を大成する。自由貿易論・地代説・労働価値説……
- * 資本主義の本質 賃労働市場の成立 資本市場の成立(信用創造) 経済合理性の確立
- * 資本主義の着火条件: 世俗内禁欲⇐カルヴァンの救済予定説(マックス・ウェーバーの説)

§マルクス主義とはなにか

←これをしらないと、日本のことも世界のこともわからない

- * 初期マルクス「経済学哲学草稿」「ドイツ・イデオロギー」 エンゲルスと協力
- 中期「共産党宣言」「フォイエルバッハ・テーゼ」 ユダヤ人
- 後期「資本論」 ロンドン亡命
- * 上部構造(宗教・政治的国家・文化・イデオロギー) 「宗教は阿片(麻薬)である」
- 下部構造(経済): 生産力⇔生産関係(私的所有)⇒階級闘争⇒歴史 史的唯物論
- * Q市場の交換は等価交換なのに、なぜ資本家は儲かるか? A労働力の価値<労働の価値
- マルクスは(労働)価値と価格の二重のシステムとして資本主義を記述し、その瓦解を予告
- * 共産主義の戦略 目標=共産主義社会(資本の社会的所有)の実現⇒私的所有の廃絶
- ⇒私的所有を担保する国家=暴力装置の廃絶⇒対抗権力の創出(国家権力の奪取=革命)
- ところがこの真理を労働者大衆は認識できない。∴前衛党の指導により、そのfollower(プロレタリア)が主体となって、革命を遂行しなければならない。(プロレタリア独裁)
- * 森嶋通夫の批判: 労働価値説は、特別の条件をみたまない限り、成立たない。 ×マル経

§資本主義の変貌 ⇒ 共産主義の解体

←記号論もこうした背景から登場した!

- * 消費社会・ポストモダン・ハイテク…… 資本主義社会の変貌を、単独の視点から解明するのはもう無理。そこで、記号論も登場した、というわけである。

§文献

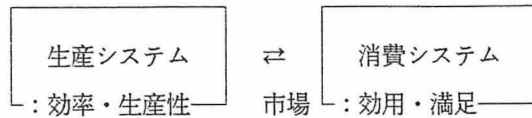
アダム・スミス「諸国民の富」リカルド「経済学および課税の原理」マルクス「共産党宣言」「資本論」マックス・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」レーニン「国家と革命」「帝国主義論」以上岩波文庫。森嶋通夫「マルクスの経済学」東洋経済新報社。

§今日のキーワード

限界効用 消費社会 ボードリヤール 自由主義/社会主義

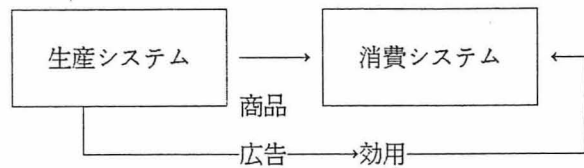
§消費社会は本当に、資本主義が変質したものなのか？

* 正統経済学による資本主義の理解



満足(効用関数)は生産システムの外部にあり、操作できない。⇒生産システム(資本主義)の正当化になる。

* ボードリヤール(Jean Baudrillard)『消費社会の神話と構造』(1970)の主張



生産システムは、広告等を通じて効用を操作し、消費を「生産」する。⇒消費のための消費

* [反論] 効用は実体をもっている(人間は生命有機体)

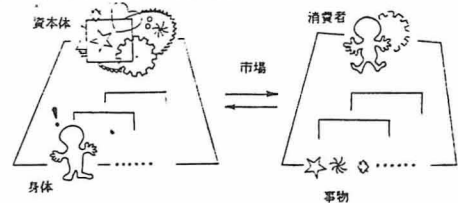
⇒ 経済が完全に自己完結して、生産システムが暴走することはありえない。

§資本主義は永遠か？

* マルクス主義の公式見解： 原始共産制⇒奴隷制⇒封建制⇒資本制⇒社会主義⇒共産主義
ところが、そんなふうになっていない。 D. Bell 『イデオロギーの終焉』：収斂理論

* ソビエト～皇帝教皇主義(Caesaropapism)：世俗権力が教会の事柄に関しても最高権をもつ。
⇒政治権力を批判することができない。もしも批判を許容すると国家が崩壊する。

* 資本：市場のなかで分権的に競争する、組織体(Df) 消費システム：人間身体を中心とする事物の配列



生産システム：機械を中心とする事物・身体の配列
(市場を介して両者は接続する)

* 厚生経済学の基本定理…“競争市場のもとで経済はもっとも効率的で、極大の厚生を実現”
→×計画経済

* 資本主義が終焉する条件…人間の身体と生産システムとが接続する場合=機械主義(メカニズム)

* のこる不合理…初期条件(現存する不平等)の問題

自由主義(社会的メカニズムの作動に任せる)/社会主義(政策的に介入する)

§文献

ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店、『象徴交換と死』筑摩書房。
山崎正和『柔らかな個人主義の誕生：消費社会の美学』中公文庫。橋爪大三郎『消費は構想力である』『ザ・トレンド 88』ユーピーユー。

§今日のキーワード

ファミコン RPG ゲームミュージック チャット 人工無能

§ゲームミュージック

* ファミリー・コンピューター(ファミコン)：(株)任天堂が4年前に開発したゲーム専用機
現在、本体1000万台、ディスク・システム 350万台が普及。

* ゲーム用コンピューターの種類 ①アーケード・ゲーム(ゲーム・センターの営業機)
②パソコン・ゲーム(MSX, 8ビット, 16ビット…) ③ファミコン・ゲーム(ゲーム専用機)

* Cゲームの種類 シューティングG/テーブルG/推理G/アクションG/アドベンチャー
G/シミュレーションG/RPG(ロール・プレイング・ゲーム)

* Gミュージックの構造…確率過程(偶然性)×キーボード入力(対話性)=ランダム・
ウォーク(有限状態を推移)。雑音を織り込む(≒前衛音楽の理念)。
音質 ①-FM音源を内蔵し、シンセサイザー化 ② PSG1個 ③ PSG3声+1、TV出力。
PSG=programmable sound generator(一種の小型シンセサイザー)

* ドラゴン・クエストII…アップル社の「ウルティマ」をベースに(株)エニックスの開発した、
RPGのヒット作。87年発売、100万本。

ドラクエマーチ/探して/王城/はるかな旅路/町の賑わい/恐怖の地下洞/戦い/……
* Cミュージックの現況 シンセサイザー+サンプラー+シークエンサー ……演奏の解体

音楽ワープロ PC版：ミュージアム2 ファミコン版：いきなりミュージシャン；OTOCKY
§資本主義はどう展開するか？ 音/映像/労働/生命/知能(言語)/エネルギー

* Cゲームは、何とぞかのシミュレーションである以上に、第一次的な現実。

* 生産システムによる再現可能性の増大

ロボット…身体技法と熟練を機械的に外置する装置

言語処理…自動翻訳機 チャット～人工無脳 音声応答機 人工知能 cf. ラクター

* 生産システム/資源 の対立は鮮明でなくなる。

エネルギー：生産システムの外 ⇒核融合：エネルギー生産(システム内部化) cf. 廃熱

§文献等

ファミリーコンピューター編集部『ドラゴンクエストII完全攻略本』1987 徳間書店。
BNN 第一企画部編『人工無能——“考えないマシン”と話す法』1987 ビーエヌエヌ。
“イエローマジックオーケストラ”(ALR-6020)“ビデオゲームミュージック”(YLR-20003)
“セガゲームミュージックVOL.1”(ALR-22907)“ドラゴンクエストII”(AY25-6)

《国際ポピュラー音楽学会日本支部設立総会 11/14, 15 18:00-21:00 豊島勤労福祉会館 歓迎》

§ 今日のキーワード

プロテスタンティズムの倫理 パクス・アメリカーナ 社会形式
“トゥギャザネス”の優越 サークル 天皇制の基本範式

§ <日本>社会がなぜ問題とされるか? ←近代主義・近代化理論の破産を受けて

- * 日本（非キリスト教圏の社会）が、資本主義として成功を収めることは、予想外だった。
ヨーロッパ文明は果して普遍的であるのだろうか? Cf. 中国・インド…アジア的停滞
- * 資本主義が成立する条件 西欧：プロテスタンティズムの倫理/日本：? Cf. NICS:儒教圏
- * パクス・アメリカーナ、米ソ冷戦構造の終焉 → 経済大国・政治小国（文化小国）日本?!

§ <日本>の社会法則 ←日本社会はユニーク。だが、特殊でない。普遍言語で理解可能。

- * [モデル] 異なる社会形式 α 、 β を背負う2人A、Bが出会い、ともに生活する場合：
 α 、 β が両立できないケースでは、
i) A、Bの少なくとも一方が、その社会形式を α' 、 β' に変化させる。
ii) A、Bは共在を解消する。（相手を殺害する場合を含む）
のどちらか。<日本>はつねにii)を選ぶ社会である。——“トゥギャザネス”の優越
- * この結果、<日本>は無数のサークル（社会形式を共有する人びとの機会的集合）に寸断される。それらは互いに両立しないかもしれない。→神話的な調停の可能性：天皇制
- * 天皇制の基本範式：各サークルの戴く神的形象の共在を神話的に主宰
八百万の神々=神々のトゥギャザネス 皇統連綿…日本の社会法則が継続している証拠
- * [系] <日本>では、言語（社会形象）が人びとを捉えることができない。
ex. 律令法の継受 仏教の移入 武士の政権掌握 一揆 幕藩制と儒教 天皇制と憲法

§ 問題としての<日本>

- * 政治的無関心……敗戦国特有の精神状況 理想主義・平和主義・反米闘争として出発
- * 戦後憲法の矛盾：民主制と天皇制の混淆 GHQ統治下の「国民主権」ダブル・バインド
世界的に通用する市民社会の政治的ルールが確立していない。⇒国際的に「無言」
- * 生活と連続する政治に対する想像力・世界秩序形成のための構想力・言語能力が求められる。

§ 文献

猪口邦子「ポスト覇権システムと日本の選択」筑摩書房。橋爪大三郎「にっぽん：記号の王国論」in「仏教の言説戦略」勁草書房。同「にっぽん：制度なき権力多様体」「オルガン」3:213-232. 同「文脈と権力」「クリティーク」9:38-50. 小室直樹「大国日本の復活」光文社。村上泰亮・公文俊平・佐藤誠三郎「文明としてのイエ社会」中央公論社。

《鈴木清順監督「ツィゴイネルワイゼン」(1980)を近くビデオで上映する。シナリオも配布する予定。VTR (VHS)のコピーを資料室に用意するので、貸出・グループ鑑賞に利用されたい。》

§ 今日のキーワード

ユダヤ教と律法 イエスの権威 喩 黄金律 神の国 終末論
聖典礼 七つの秘蹟 愛 聖職者

§ キリスト教は結婚を正当化しない

- * ユダヤ教の戦略：日常生活を、規則（律法）でユダヤ風にかんじがらめにしてしまうこと。
聖典（トーラー）：モーゼ五書（創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記）
律法=神の命令=神の救済の約束（ユダヤ人との契約） モーゼの十戒、申命記、…
その内容：宗教儀礼の執行規則・日常生活全般の規則（含、食物規制） =法律
- * キリスト教の戦略：律法の効力を停止し、律法を喩にかえて内面の倫理を開始すること。
イエス=神の全権代理=神の子 イエスは彼の権威(authority)によって、律法を停止
律法の命令~行為の外形に關説 ←→ 福音書の命令~内面に照準~行為と關連せず
「姦淫してはならない」 「淫らな思いで女をみるものは心で犯したのだ」
各人の中に、罪の場所を用意 血縁からの離脱 行為のゆえに救済される途を閉ざす
- * 愛の教説「汝の隣人を愛せよ」「汝を迫害する者のために祈れ」 愛=理想的な対他関係
黄金律 「汝の欲するところを、汝の隣人になせ」 ←連立させても社会関係は確定しない
何が善/悪かは、世俗社会の規範によらないと決まらない。（納税、服従の是認）
ゆえにキリスト教の信仰は、任意の社会関係と両立する。内面の信仰として普及。
- * パウロ書簡による結婚観：終末論的期待
神の国は近づいた(near at hand) ⇒ 現世の生活は無価値だ ⇒ 現世に捉われるな
独身は最善 結婚は姦淫よりもまし

§ キリスト教会（カトリック）は、世俗倫理を二重化する

- * 教会伝承の成立 教皇=ペテロの後継者=「天国の鍵」を預かっている
聖職者は福音の倫理に拘束される（従って独身）/俗人は通常倫理に拘束される
- * 結婚は俗事であり、罪の結果。→中世が下るにしたがって、結婚を教会が正当化し始める
この段階で、結婚は愛と関係ない 結婚≠隣人愛<神への愛 Cf. 政治権力の正当化
- * 宗教改革=教会の権威を否定 ⇒ 教会による結婚の正当化は不可 ⇒ 愛による正当化へ

§ 文献

フーコー「性の歴史Ⅰ～Ⅲ」新潮社。「キリスト教史（全11巻）」講談社。ウェーバー「古代ユダヤ教」みすず書房。「新約聖書・共同訳・全注」講談社学術文庫。

§ 今日のキーワード

宗教改革 神父/牧師 ピューリタニズム 世俗内禁欲
ロマンティック・ラヴ ペットィング フリー・セックス

§ 宗教改革と性愛倫理 (⇒近代市民社会の誕生 ⇒制度としての「芸術」の誕生!)

- * 宗教改革の主題: 救済(=神の国に入る)のための方法論 ○聖書による信仰 ×教会の権威
→ その効果: 社会倫理の一元化 修道院の倫理が世俗のものとなる Cf. R. カルター
福音的勧告(聖職独身主義)の廃止 中世の解体と市民社会の樹立
- * 宗教改革と絵画 フレスコ(宗教画)~教会 ⇒キャンバス(静物・風景)~ブルジョワ
信仰に焦点 → 内面⇒表現(作品) Cf. 天才(モーツァルト vs カイリ)
- * 宗教改革と科学 信仰に焦点 → 主観⇄客観(自然) → 知識の蓄積=真理への漸近
- * 宗教改革と結婚 結婚=隣人愛 「結婚したら愛さなければならない」 愛がないなら離婚
性愛は結婚に付随 ×生殖のための手段 ○それ自体を享受 婚外交渉は「姦淫」
世俗の生活が正当化されるのと同じ理由で、結婚生活も正当化される。

§ 市民社会と性愛倫理

- * 結婚(道徳)と愛情(倫理)の矛盾 結婚/愛情…性愛を正当化する二つの要素
その実践的解決……恋愛⇒結婚: 愛情の持てる相手の中から配偶者を選ぶ
- * 恋愛段階の自立~「純潔」道徳 愛情は性愛と違った表現手段を見つけねばならない
ロマンティック・ラヴ プラトニック・ラヴ 「処女」の価値 自瀆の罪悪視
⇒性的抑圧……男性/女性の二重道徳; Q「女性に性的欲望があるか?」
- * 性愛表現の発達(ペットィング、……)~恋愛至上主義の産物 Cf. 日本的愛技(48手)
実質的性交渉の一步手前で、性愛技法が増殖(この時期ダンスは身体接触を主題とする)
- * フリー・セックス(性の解放) (男性/女性の二重道徳が解消した点が重要)
ステップ1 愛があればセックスしてもかまわない (この時期ダンスは接触をやめる)
しかしセックスは愛にどこまでも似てくる。どうやって愛を確認するのか?
ステップ2 愛がなくてもセックスしたければしてよい → 性愛倫理の解体

§ 日本社会の性愛倫理

- * 「愛」は仏教で罪悪だった(=煩惱・貪欲) ←→ 北村透谷の「恋愛」賛美
- * 性愛がまともな議論の対象となったのは、ようやく戦後のこと Cf. 性感帯論争
「実際の看護の秘訣」(1924)/謝国権「性生活の知恵」(1960)/奈良林祥「HOW TO SEX」(1970)

§ 文献 フックス「風俗の歴史(全10巻)」光文社。ハイト「ハイト・レポート」パブリック。マスターズ「人間の性反応」池田書店。橋爪大三郎「性愛論」(未発表)。

§ 今日のキーワード

ヴィトゲンシュタイン 「哲学探究」 言語ゲーム ふるまい
規則(ルール) ハート 一次ルール/二次ルール 複言語ゲーム

§ 「言語ゲーム(language game)」とはなにか?

- * Ludwig Wittgenstein (1889-1951) : ウィーン生まれ、ユダヤ系の哲学者。
「論理哲学論考」(1922): 前期 “ことばが意味をもつのは、事物を指示するからである”
「哲学探究」(1936-1949): 後期 “前期の考え方は全然支持することができない”
- * 言語ゲームの発見 ~ ことばや記号がものごとを「指示」するのは、確かだろうか?
×直示的定義=あるものを指さして、ことばの意味をきめるやり方
×私的言語=自分の感覚・印象がことばの意味であるときめるやり方
→ことばや記号の「指示」作用は、われわれのふるまい=用法を考慮しないと理解できない。
- * 哲学はことばを使って、世界を考えてきた。しかし、ことばの用法に注意しないと、とんでもない罠におちこむことになる。 例) ×懐疑論
- * 我々の生活はみな、言語ゲームである。言語ゲームを遂行できても、そのゲームがどんなものか自覚できるとはかぎらない。 例) 「文法」など知らなくても言語は喋れる。

§ <言語ゲーム>論

- * どんな言語ゲームにも秩序がある。……これを規則(ルール)と呼ぼう。ゲームはルールをとりだすことはできるが、それは別の言語ゲームである。 例) 数学/論理学
- * 英国の法学者H. L. A. ハートは、一次ルール/二次ルールの概念を提出した。
→ これを、言語ゲームの複合(=複言語ゲーム)と考えることができる。(橋爪説)
- * 言語ゲームをモデルとして社会を考えることができる: <言語ゲーム>論
実例: 宗教研究~仏教・イスラム教・キリスト教……。
法律・科学・その他、言語に関連する社会現象の分析に有望 Cf. 権力分析

§ 言語~文脈~ふるまい~記号

- * 言語や記号や意味の世界を支えているのは、われわれの視えないふるまいの厚みである。
それは伝統のようにしてそこにある。
- * 言語や記号や意味の世界がどのようなメカニズム(ふるまいに支えられているか、語りつくすことはできない。 Cf. ゲームとしての芸術/その批評

§ 文献 ヴィトゲンシュタイン「哲学探究」大修館。橋爪大三郎「言語ゲームと社会理論」勁草書房。「<言語ゲーム>それはすべてである」「思考のレクチュール3」作品社。「仏教の言説戦略」勁草書房。H. L. A. ハート「法の概念」みすず書房。

§ 上映時間

…… 144分と長尺のため、正規の講義時間に入りきらない。そこで、つぎのように変則的な上映方法をとるので、各自十分注意のうえ、最適な仕方鑑賞するように。

	3:10~4:40	(休憩)	4:50~5:50頃
11月 1 8 日	解説にひき続き、 <u>前半</u> を上映		そのあと、後半を上映
11月 2 5 日	解説にひき続き、 <u>後半</u> を上映		そのあと、前半を上映

すなわち、①18日に通して観ても、②25日に(順序が逆になるが)通して観ても、③両日にまたがって、前半/後半を観ても、よい。席に余裕があれば、2回観てもよい。

§ ビデオの貸出し等

両日の都合が悪いひと、何回もみて分析したいひとは、VTRテープ(VHS)の貸出しや、大学のビデオデッキを利用するように。

- * 貸出……火曜・木曜に、芸術学科資料室の川村さんを尋ね、借り出すこと。早目に予約しておくほうが確実である。火→木、木→火返しが原則。
- * 鑑賞……3人以上のグループを作って、同じく川村さんに申しこめば、芸術学科のテレビで観ることができる。必ず事前に空き時間を予約しておくように。

§ シナリオ

シナリオを用意したので、上映の当日に配布する。それ以前でも、芸術学科資料室にいけば貰えるが、まず映像に接してからシナリオをみたほうがいいのではないかと思う。

§ レポート

「ねじ式」のときと同じように、受講者諸君のレポートをもとに、作品の分析を通じて、記号論の考え方を実習することとしたい。そこで、以下の要領で、有志諸君のレポートを募る。

- 分量：特に指定しない。短いものでも、長めのものでも歓迎する。
- 内容：あらすじなど概括的なことはいいから、どこが気になったか、どこをどのように考えるか、率直な感想や、作品を掘り下げた分析をのぞみたい。
- 締切：88年1月13日

§ キーワード 非言語(ノンバル)コミュニケーション キネシックス プロクセミックス
アイ・コンタクト 周辺言語(パラランゲージ) ボディー・ランゲージ

§ 非言語コミュニケーション (あるいは、ボディー・ランゲージ)

- * 非言語(ノンバル)コミュニケーション：非言語メディアによる意識/無意識的な表現・伝達作用
非言語メディア：①人体(性別・年齢・体格・肌の色……) ②動作・姿勢 ③目 ④周辺言語(話言葉に付随する音声の特徴) ⑤沈黙 ⑥身体接触 ⑦対人的空間 ⑧時間 ⑨色彩
- * 1960年頃から本格的な研究開始。二つのコミュニケーションが矛盾した場合、NVC が信じられる。
キネシックス(動作学)……R. L. Birdwhistellが提唱。表情・動作・姿勢についての研究。
キネ(動作素)→動作→ポジション → (注)メッセージは状況や文化により大幅に相異。

§ プロクセミックス(近接空間学) —身体距離をめぐる—

- * E. T. Hallの提唱。密接距離/個体距離/社会距離/公衆距離(各々に近接相/遠方相あり)
~15~45~75~120~210~360~750~ cm 距離のとり方が態度・関係の表現になる

§ 視線のルール ……人間を物体視しても無視してもダメ(礼儀正しい無視)。“道徳的な観察時間”

- * 目が合えば先に見た方がそらす。* すれ違う場合 2.4メートルで目をそらす。* 発言交替の合図
- * 瞳孔サイズの拡大→関心・好意 男性~スード/女性：赤子(+母) or 男性の半裸像

§ “女性”の演出 ←上野千鶴子「セクシィ・ギャルの大研究」光文社。

- * E. Goffman: 社会学者。演劇的アプローチ。Gender Advatisement K. Lorenz: 動物行動学者
- * 仮説：広告(女性)に向かう視線は男性(支配者、性的欲望)の視線 口唇=女性器、交叉=防禦、斜めの姿勢=服従、ヒラキ=逃げ・ナルシム … 広告には男の女支配が反映。

§ ボディー・ランゲージの諸相 —就職試験に強くなる法—

- * 背が高い→有能 * 十分なアイ・コンタクトを保つ(注視時間80%)→親近感・自信
- * 相手との間隔を詰める→積極的 * 詫言がない→社会的・知的地位が高い ∴日頃から練習

§ 文献 ユリアス・ファスト「ボディー・ランゲージ」読売新聞社。M. F. ガーガス「非言語コミュニケーション」新潮社。E. T. ホール「沈黙のことば」南雲堂。D. エリス「裸のサル」河出書房新社。同「ふれあい」平凡社。同「ジェスチャー」日本ブリタニカ。A. モンタギュー「タッチング」平凡社。同「愛としぐさの行動学」海鳴社。ハワード「愛のなりたち」ミネルヴァ。W. ムルヒ「ボディ・コード」紀伊国屋書店。K. ロレンツ「攻撃」おず。アイゲル・アイズフェルト「愛と憎しみ I, II」おず。

☆《レポートで試験に替えたい人、試験と別にレポートも提出したい人は、試験前日までに、葉書で学籍番号・氏名・レポート題目を届出ること。1月19日消印有効。なおレポートは郵送・1月末日締切とする。万一提出できなくなった場合も必ず連絡するよう。宛先：248 鎌倉市材木座5-9-11》

§ 今日のキーワード サウンド・スケープ M. シェーファー 環境音楽 フラクタル幾何学
1/f ゆらぎ white music / 1/f music / brown music E. サティ

§ サウンド・スケープ (←小川他編「波の記譜法」(1986)、シェーファー「世界の調律」(1977))
Murray Shafer (1933-) : カガの作曲家・音楽教育家。1971、World Soundscape Projectを発足させる。1981、ババ「星の女王」。「環境の音楽」(1973)「五つの村のサウンドスケープ」(1977)ほか。
: 楽音/雑音ノイズ、作品/環境…といった対立と排除の構造を離れ、音世界を意味と経験の全体として受けとめ、享受しようという試み(=作品・生活・教育・運動)の総称。

音事象サウンドイベント 音風景サウンドスケープ 基調音キートサウンド 標識音サウンドマーク 音の民族誌ソノグラフィ
* 神田サウンドスケープ研究会 : 神田地域の音風景の総合研究(1985-) ニコライ堂の鐘 五つの街路の音
§ 環境音楽 (←田中直子「環境音楽への旅」NHK-FM 1986. 8. 16)

バロックのTafel Musik →ルイジ・ルッカ(未来派)→エリック・サティ(家具の音楽)→ミナル・ミュージック →
* Brian Eno (1948-) : イギリス生まれ。美術学校在学中から実験音楽に没頭。ロキシー・ミュージックのスター。オプスティア・シリーズ(1975-1978)、アンビエント・シリーズ(1978-)を通じて、環境音楽ブームの先駆けとなる。

§ 1/f ゆらぎと、1/f music (←武者利光「ゆらぎの世界」(1980))
フラクタル図形 : 部分と全体とが同一な図形 ex. 山の稜線・海岸線・カワラワ →CGへの応用
確率密度分布(波形) →三角関数への分解 →パワースペクトル密度(=波形の統計的性質(ゆらぎ)の表現)
→白色ゆらぎ ; 1/f ゆらぎ ; 1/f² ゆらぎ (自然界のゆらぎは大体この3種類)

1/f ゆらぎの例 : ナル河の水嵩、道路交通量、瞬間風速、木目、電車のゆれ、脳波、神経パルス…
* 写実絵画は1/f² ゆらぎ、水墨画・マンガ・抽象画は 1/f ゆらぎになっている。
* 音楽クラシック・ジャズ・ポップ…はみな、1/f ゆらぎに従っている! …適当に退屈、適当に刺戟的(美の本質?)
white music …脈絡なく疲れる、1/f music、1/f² music (brown music) …無変化で退屈

§ 文献 マリー・シェーファー「世界の調律—サウンドスケープとは何か—」平凡社。小川博司・庄野泰子・田中直子
・鳥越けい子編著「波の記譜法—環境音楽とは何か—」時事通信社。武者利光「ゆらぎの世界—自然界の1/f ゆらぎの不思議—」講談社カルパックス。B. マンデルブロ「フラクタル幾何学」日経サイエンス。

INFORMATION

* 神田サウンドスケープ研究会(代表・鳥越けい子)では、調査・研究に加わってくれる仲間(ボランティア)を募集しています。音楽・地域・環境に関心のある人はぜひ、事務局(261-9561)に連絡して下さい。
* 期末レポート提出(任意)締切: 卒業予定者は1/24、他は1/30、消印有効。248 鎌倉市材木座5-9-11

答案は、別に配布する用紙に記入すること。一枚に書ききれないひとは、何枚になってもよい。

〔0〕まず、答案用紙の1行目に、学籍番号・氏名を記入しなさい。

〔I〕以下の語群のなかから、5つを選び、おのおのについて3行前後で説明しなさい。高校生の弟か妹に説明するつもりで、明快に。(10点×5)

語群……ソシュール シニフィアン/シニフィエ 記号の恣意性 音素 弁別特性
コード/メッセージ チョムスキー 手話 生成文法 言語能力 発話行為
レヴィ=ストロース 構造主義 インセスト・タブー 自民族中心主義
野生の思考 二重分節 ラング/パロール バルト モンタージュ 言語学
デノテーション/コノテーション 半陰陽 性別 猥褻 ポルノグラフィ
社会主義リアリズム エイゼンシュテイン ポスト・モダン 資本主義
労働価値説 消費社会 ボードリヤール ファミコン RPG 人工無脳
ヴィトゲンシュタイン 言語ゲーム サウンド・スケープ 環境音楽
非言語コミュニケーション(=ボディー・ランゲージ) プロクセミックス

〔II〕設問(a)、(b)のうち、ひとつを選択して、解答せよ。(50点)

(a) : 今回の講義を参考に、記号論とはどのような学問であるか、また、今後われわれが社会生活を営んでいくうえで、どのように役立つ(役立たない)か、なるべく詳しく、具体的に、自由に論じなさい。

(b) : めいめいの専門や関心のあるテーマにひきつけて、記号論から刺戟される点、記号論に期待する点、記号論の批判すべき点などにつき、つつこんで、縦横に論じなさい。

〔III〕以下に該当するひとは、答案用紙の氏名の下に、その旨記入しなさい。

(1) : 答案用紙の返却を希望する人 → 「返却希望」
(2) : 単位が足りていて、就職等の都合から、高得点でないなら欠席扱いにしてほしい人。
→ 「〇〇点以下単位不要」

多くの皆さんから熱心なレポートを提出していただき、感謝している。これらによりながら、問題点を整理し、この映像作品の本質に迫りたい。

最初に断っておくが、数学とちがって、映像の記号論に正解はない。私が正解をしっているわけでもない。私も皆さんと同じで、ただ狂言回しをつとめ、交通整理をするだけである。作品にマニュアルに喰いつくこと(それも面白いが)を目的としないで、ややあさきりめに話を運ぶとしよう。皆さんのレポートからの引用は、以下の略号で示す：

62A	〔匿名女〕…M	60A0203	飯塚直彦…飯	62L0402	石川 晶…晶
62A	〔匿名男〕…ムリツ	60A0324	舟津由香…舟	60L	〔匿名男〕…インターショナル
62A	〔匿名男〕…風	60A0327	穂谷野陽子…穂	59L0204	磯部美穂子…磯
62A0219	滝沢葉子…滝	60A0406	置田恭子…置	62H0218	榊原利幸…榊
62A0314	鈴木知未…鈴	60A0437	籾 銘菫…籾	62H0240	渡辺正徳…渡
62A	〔匿名女〕…あ	60A0131	室岡博樹…室	61H0213	北嶋美和…北
61A0134	森本雅子…森	60A0409	川畑宗昭…川	61H0315	島崎智子…島
61A0201	青山和代…青	59A	〔匿名男〕…T. E.	61H0403	大川陽子…大
61A0229	正木庸晴…正	60E0732	町谷尚彦…町	60H	〔匿名女〕…ちかやん
61A0237	和地直美…和	62L0104	石川麻子…麻	60H0213	小松悦子…小
61A0306	入船ゆかり…入	62L0106	今泉悦子…今	60H0218	高島由紀子…高

□1. 印象□

最初に印象をひろってみると、好き嫌いは人それぞれにわかるものの、一様に不思議で不可解な印象、一種のショックを受けたという。《感想を一言で言うならば、奇妙だったという感じ…妙な緊張感が頭を離れなかった》(和)、《“怪しげ”な映画》(北)、《奇妙というか、実に異様な映画でした》(今)。《この映画を観て感想や分析をしていくと頭が変になりそう…観ていて妙な気分になってしまいました》(TE)、《抽象的なワンショットの連続により、不可思議な恐怖感と威圧感を感じた》(あ)、《はじめて観…すごいショックを受けたのをおぼえている》(TE)。

意味がつかみにくいせいもあってか、どちらかと言えば、好意的でない印象をのべた人が多かった。《意味がよくわからないし、不気味な映画で…好きではありません》(鈴)。長すぎる、と感じたひといた。《日本映画特有の間のあいた白さが目立った》(島)、《ああ疲れた》(穂)、《最後まで見終えるには苦勞するほど、飽きてしまっていた》(あ)、《映画全体をもっと短くしたらいいと思います》(蕭)。なかには、強い不快を抱いたひと多かったようだ。《理性が拒絶するの、何度も途中で観るのを止めようとさえしました。はきけすら覚えました》(今)。レポートでないが、試験の答案欄外に、《あの映画が頭のなかにこびりついて離れないので…「あんな映画2度みたくない」と一言、言いたい…。見ていてはき気がしそうなくらい、きもち悪くなりました…邦画でショックを受けたのははじめて…》(59A男)と書いてくれた人もいた。

いっぽう、プラスに評価する人もいる。《ただただ魅入ってしまった。訳のわからない映画であることは確かだが、観ている間わからないというのが特に気にもならなかった》(森)。《なにがなんだかわからなくて、妙にブキミで、おもしろかった》(小)、《時間の長さを感じさせない素敵

な作品》(榊)。微妙な感触をのべる人もいる。《“嫌悪感”と同時に、なにか別の…もう一度味わいたい、という気持》(高)、《一見して不快さを憶える画風であるが、よくよく見てゆくと妖艶と言うほうが適切ではないかと思えてくる》(渡)。

なぜ、多くのひとがショック・不快を感じるのか？ この正体はなんだ？ 最後にはこれをつきとめよう。

□2. 難解かどうか□

この作品を《難解》(今)(北)(正)(穂)、《わからなかった》(舟)と考える人が大部分なのは、当然であろう。《とにかくややこしい映画》(M)、《難しくて納得しにくい映画だ》(蕭)。いっぽう、こういう映画になれていて、《“わかり易い難解映画”であると思う》(TE)人もいる。《ちゃんと理論的というか、ある方法にのっとって現実・非現実が入りまじっているので、その印をみつけられれば、それほどこんぐらがるような構成にはなっていない。》(TE) 私も、みかけほど難解でないという意見に賛成する。

しかし、この作品がどうしても難解に思えるのは、テーマを読みとりにくいせいでもあろう。《この映画は、何を訴え、表現しようとしているのかが、まったくわから…ない作品だ》(風)。北嶋さんによると、映画には、《(1)観客になにかを伝えることを目的とした映画、(2)観客にわかろうとわかるまいと、映画それ自体がひとつの世界として存在している映画》の二つがあり、後者の典型と思われるこの作品の場合、《そもそも作り手の方に何か伝えようという気持があったのかどうかさえ疑わしい》(北)。《ベラ・バラージュのように、よい映画とは内容を持たないとすれば、ツィゴイネルワイゼンは“非常によい映画”だと言えよう》(入)。一見して、作品にテーマが欠けているので、《思わずテーマをネツゾウしてしまいそうになる》(正)ことにも、気をつけたいといけな。《一貫した不条理といったもの…が観客にうけとられれば、作品としては成功している》(TE)ともいえる。

どこかこの作品は、難解であることを「仕組んで」いるふしがある。あるいは、ほんとに中身がなく、表面(映像)だけでできている映画なのかもしれない。これも答案からの引用だが、《意味とかつながら…に執着する方がヘンなんじゃないかと思ひ、全てが「絵」の上の連続だと考えることにしたら、「なんて綺麗ななんだろう」と感動してしまいました》(60H女)との声もある。

□3. 登場人物たち・その1——中砂と青地——□

さて、どこから切りこむのだが、《この映画を分析するとしたら、誰でもまず、象徴的に対比し置かれている「青地」と「中砂」を材料として使うだろう》(高)。《このふたりは、対称的で、中砂は旅ばかりしていて、野性的な人物で、青地は、いかにも普通の人ぼく描かれている》(町)。《青地はまじめで洋風のイメージ、中砂は放浪へきのある和風イメージ》(ち)、《中砂=本能的～人間の業を象徴～愛欲/青地=理性的～抑圧～隠されたもの》(磯)。また当時の風俗を考えると、《洋服：正装・インテリ・新しい、和服：遊び・大衆・古い》(川)のイメージの対比が成立つであろう、と言える。

《中砂…こそ、チゴイネルワイゼンという曲に、ふさわしい人間》(風)、《自由ほんぼうでとらえどころのない存在》(高)だ。《この世界をすべて見切った人間に思えた》(飯)。中砂には、《反感に近いものを感じる…が、…しかも魅力的である》(イ)という二面性がある。《誰もが、魅力を抱く男だったに違いない。…主人公は中砂がいるからこそ成立っている、逆に考えれば、中砂が、主人公だとも言える》(風)。《中砂は一種の光源氏のようなものであって、許されざる骸骨との恋を求めてさまようジプシーなのでしょう》(北)。《いってみれば、古風な男》(渡)。下駄をはいているが、それを《貧乏》《ずぼらな性格》《背が高い…神に近い、俗人に及ばぬ存在》(川)を表す、とみることもできる。《江戸時代の囚人のイメージ》(川)というの、なるほ

どと思った。そういえば、《最期に自分を縄で縛っている》(川)。

青地のほうは、紳士然とした《現代人》(渡)である。《常識のないでたちに身を包んで…文明＝理性の象徴であると同時に…没個性の意味を含んでいる》(川)。もっときびしく言えば、《身なりにこだわる》青地は、《自分の魂が出来で、自分をうまくつかみとることが不器用な…見せかけだけの美術品》(川)かもしれない。しかも《青地は、孤立している》(渡)。

そんな青地が、なぜ中砂と親友なのだろう。《「私」はどうして、こういう変な男と深くつきあっているのだろうか》(北)。

《青地と中砂の関係だが、青地の一方的な“あこがれ”によって、ふたりの関係は成り立っている》(高)といえるだろう。青地のように《どんな紳士的な男であっても、中砂のような放浪の欲望をもっている》(北)とも考えられる。青地豊次郎は、「陸軍士官学校独逸語教授」をつとめるサラリーマンである。この社会に生きる誰でもがそうであると同様、やむをえず多くのものに縛られているのだ。

人間は、対極のもの、自分とは正反対のものにひかれる。《この作品は、日常に対する非日常、陽に対する陰をあつかっている》(渡)。しかし、中砂と青地(私)には、それ以上の深いつながりがあるようだ。言ってみれば、“同類”なのである。あの中砂は「元！」独逸語教授であった。ふたりは《本質的に同一なのに対称的な生き方》(町)に置かれているだけだ。

中砂の行動は、《“家庭”“モラル”“他人”に縛られない自由な行動であると同時にある種の異常さを秘めている。この異常さは、“私”の、あるいは鈴木清順の内に秘められた衝動と考えることができる。…“私”という主人公が、表面した体現しないという不完全な存在であるため、その内面的欲望を体現する中砂を配することによってはじめて流れを描ききることができる…。つまり、“私”と中砂はそれぞれ一つのできごとに対する、常識的な視点と内なる欲望であって、この両方…を合わせることにより、はじめてひとりの人間の視点を作りあげることができる》(川)。《“私”と“中砂”は人間の、或いは監督であるところの鈴木清順の陽の要素と陰の要素の投影である》(川)。

実質的に同一人物なのに、別人として経験されること。ドイツ文学(例えばホフマン)によくある、分身あるいは二重人(Doppelgänger:ドッペルゲンガー)のことを、私はどうしても思いだしてしまう。ポオの作品にも、「ウィリアム・ウィルソン」というのがあった。「ジキル博士とハイド氏」も関係なくはない。二重人の片方は、自分の内部に棲むがそれを自分で承認できない悪魔的な自我である。そして、片方の破滅はすなわち、もう片方の破滅をいみする。芥川も神経症を病んだときに、これを経験しており、芥川と同じ漱石門下の内田百閒(原作者)も、ときにノイローゼ気味だった。内田もながらく士官学校のドイツ語教師をしており、(原作の主人公)青地には多分に彼自身の姿が投影されている。造形の順序からすれば、一個の人間の狂気の部分がひきはがされて、中砂という人物に結晶したのにちがいない。しかし内田の、たわいない私小説風のエピソードを、「ツイゴイネルワイゼン」という作品にまとめあげたのは、脚本家の田中陽造である。原作(「サラサーテの盤」「山高帽子」など)に遡って、調べてくれた人もいた(滝)(舟)(森)。セリフのいくつかは、原作と共通しているものの、構成はこの作品独自のものといえる。

中砂という人物は、そのトンビ(黒マント)といい、《正体のわからない悪魔のような感じを与える》(晶)。《黒という色だが、ヨーロッパでは古来悪魔を象徴する色…。西洋で悪魔というのは日本の鬼と違い、契約によって願いを叶えてくれる存在である》(川)。中砂と青地が骨をとりかえる「約束」をしたのも、こうした文脈があつたことである。(ちなみに「アマデウス」でモーツァルトはサリエリの黒マント姿にびびっていたが、約束の履行を迫る筋だてはおなじみのものである)。中砂は、トンネルのむこうの家に住み、洞窟のなかで骨をとりかえる約束を持ちだすなど、地下の世界とのつながりがあるようにも思える。ドイツ文学との関連から、ファウスト伝説(ゲーテの「ファウスト」が名高い)が連想されるが、中砂＝メフィストフェレス、とするようなレポー

トはなかった。

□4. 登場人物たち・その2——イネ・園・周子——□

青地・中砂の男性陣に対して、女性たちに目を転じてみる。《妖しく美しく、又、みだらに、そして清らかに、したたかに、女たちは描かれている》(穂)。

イネと園は一応、《芸者風/古風》(渡)、《日本女性の…2つの典型》(島)という風に造形されている。しかし、瓜二つ(二役)で、奇妙に入れ替わり、どちらがオリジナルともコピーともいえない、置き換え可能な関係にある。《イネは、死んだ園》(青)、《後半のイネはまるで園そのものである。…もしかすると、“女”の裏と表なのではないだろうか》(北)。

青地の妻、周子は《モガ風》(渡)、《人工衛星的なカンジのする人》(森)。最初の台本で特に指定はなかったが、周子役の大楠道代が監督にかけあつて、洋風で奔放な女性に設定を変更してもらったのだ、という。この映画はオールロケで撮影されたが、たまたま取り壊し寸前の洋館(七里ヶ浜の旧有島生馬邸)が使えることになったことも、関係あるかもしれない。最初の台本しか読んでいなかった私は、画面で周子の役作りをみて、ほんとうにびっくりした。

これらの女性は、中砂と青地をめぐって、ややこしい愛憎の三角関係を織りなしていく。しかし、(想像というか、妄想のシーンを除き)画面では直接描かれないので、観る側でそれを推測するしかない。葬式がえりのイネ(小稲)が座敷に呼ばれたそのあと、なにがあつたか。翌朝のイネはすっかり打ち解けて、(客あしらいということもあろうが)慣れなれしい。青地はイネにひかれていると自覚しながら、手の早い中砂との間に割って入ることができない。《青地は中砂紬のうしろからしか生きてゆけない》(飯)のだ。

中砂が妻に迎えた園は、イネに似ている。青地はやはりひかれたのだろうが、尋ねられてもイネのことを、園に話すことができない。園は傷つき、中砂は旅に出してしまう。《つれない夫をうらむあまり、園は青地を誘惑したのではないだろうか》(北)。《豊子は青地の子だったかもしれない…。でも、ラストシーンとのつじつまが合わなくなるので、豊子はたしかに中砂の子だったかもしれないけれども、園と青地との間に何かがあつて、そのことを中砂が承知していたのではないだろうか、と思いました》(北)。

いっぽう、《周子はよりしたたかな女だった》(北)。《周子の体質が変わったのは中砂に影響されたからだろう》(M)。《青地さんの奥さんでありながら、中砂との共謀者であるような気もする》(森)。《ピアノをジャンと鳴らしたのは、言いたくない真実があつたから》(青)。レコードを隠していた周子は《中砂に対してかなり本気だったのではないだろうか。…それにしては青地が妻の決定的な証拠をにぎることは最後までできなかった》(北)。

周子の妹、妙子のことも忘れるわけにはいかない。彼女は病気で入院している。ロケ地は肺結核の療養所だったが、《なんとなく梅毒だったような気がする》(飯)と言うひともいた。《彼女もまた、目は開いているけれど、見えているのかいないのか。…死の瀬戸際に立つ者。あの世とこの世を行ったり来たり》(森)。たらの子の《必然性がわからない》(青)という声もあった。《青地と妙子との関係に、青地と園との間で起きたS25のような出来事があつたのではないか》(北)と見ることもできよう。

□5. 登場人物たち・その3——盲目の門付け三人組——□

“先達”を演じる暦赤児まろあかじはもと、唐十郎ひきいる状況劇場の俳優。独立後、舞踏集団「大駱駝館」を結成し、独自の活動を続けている。このキャスティングによって、この映画に強いアクセントをうるようになった。《最初から、あつけにとられていた》(磯)。《人間の卑しい部分といやらしいまでのたくましさを感じた(今)》。《演技とは思えない形相で不安定に連なり、歩いていく姿は強烈な印象に残った》(島)。

この《盲目の三人組は三角関係》(M)、すなわち、《中砂と青地とこの二人をめぐる女を現わしている》(町)。《2:1の危なっかしい関係》(北)、《男二人と女一人は、男二人(青地と中砂)と女一人(園と小稲)を暗示したもの》(晶)だ。《彼らは目は見えないのだろうが、なんだか青地を監視しているような印象を受ける》(森)。また《顔の表情、歩き方、やることなすこと、くさっていた》(磯)とみえたとすれば、彼らは骨になる途中の肉だったのかもしれない。

男ふたりは殴りあって、棒(骨?)を残し、穴にもぐってしまう。このシーンは撮影の当日、思いつかれたものという。《なぐり殺し合うシーンの意味がよくわからない》(町)のも当然かもしれない。新約聖書に、盲人(神をみない人)が盲人を手引きすれば、穴(破滅)に落ちるだろう、という喩えがある。たしかブリューゲルは、教会のまえを、あらぬ方向に過ぎゆく門付け盲人の行列(先頭の一人はもう転んでいる)の絵を描いた。三人組が最初に出てきた場面でも、小さな社^{ヤシ}が後ろにあったし、殴りあいの場面でも最後は穴に入ったわけだから、筋がとおっており、ヨーロッパ的文脈で愛欲の罪悪を読み取ることもできるわけだが、そんなことまで考えて作っているのかどうかまったく不明。なお、以上のシーンは中砂の解釈であり、イネはイネで、三人で夫婦になった、と主張する。

なお、森本さんは、登場人物の名前を考察してくれた。青地豊次郎は、原作そのまま。周子、妙子、糺、園、小稲の解字によると、登場人物の性格に合致するという。小稲に《園=畑からの派生の意味がこめられているのでしょうか?》(森)とは、面白い指摘。ついでに、周子=レコード、と考えてもいいし、豊という字は、体という字を昔「體」(骨+豊)と書いたこととつながる、とこじつけたって悪くない。

□6. ストーリー展開□

これらの登場人物たちが、どのようなストーリーを展開させてゆくか。

この作品は、ごくふつうの映画とだいぶ様子が違っている。《会話からのストーリー性がなくてはならないという従来の邦画の概念をまったく無視している。…不自然で奇妙な展開》(あ)。《登場人物は次々と死んでいく。…死が映画のなかで自然な流れのまま話の起伏にもならない》(島)。《登場人物や時間と場所の関係はじつにはっきりしているものの、ストーリーの一環性という点でいうとよくわからない映画です》(北)。《ちゃんと時の経過は示されているのだが、実際に伝わってくる時間は、果てしない一日のような気さえする》(置)。

この印象は、何が事実でなにが想像だかはっきりしないことにもよっている。《夢やうつかわからない胡蝶のような場面が多い》(舟)。《全体の雰囲気としては、白屋夢を思わせる、春の少し上気した砂まじりの風が吹きあれているようだった》(大)。

結末によっても、解決が与えられはしない。《サラサーテのつぶやきから、この話ははじまったのだが、それが、どういう意味で終わったのかは、ちょっとわからない》(磯)。《映画を観終って、一応の決着がついたはずなのに、完結していない印象が、尾をひく》(穂)。《わかりそうでわからない。わからないけどわかっているんじゃないかと自分で思える。このはがゆきを残し、この映画はこれから先もあり続ける》(森)。《多くの疑問を残したまま終わってしまって、わけがわからない…。わからないことばかりが後に残って…これが作者の狙いなのだとはわかっているのだが、他の映画にはない、この妙な後味が奇妙で不思議な感じである》(和)。

別の角度から、こうも言えるであろう。この作品は《見る者を…突きはなされたような気にさせる。…何故…と云うと、それは、見る者が登場人物に感情移入できないからである。誰に感情移入してよいか分からぬまま話は進んでゆく》(渡)。《観客の感情移入を求め…のどまるで異質の映画、…できる限り作者の感情を取り除き客観的であろうとした結果できた映画》(北)だからだ。それでも《人は、あきることなく見続けてゆく。なぜなら、そこに「私」がいるからである。「私」こと青地は、この映画をモノローグでつぶっている。…近代社会においては、誰もが…当りさわ

りのない自己不在人間…を演じている。その役を「私」だけが演じているのである。見る者は「私」をまさしく私として見ることができる》(渡)。この映画の居心地の悪さは、実社会でのわれわれの居心地の悪さに見合っている。ストーリーの脈絡のなさを、見る者が、自分の日常の脈絡のなさと重ねあわせてしまう効果がありそうだ、ということだ。《中砂に比べて普通な、語り手であるわたしの観点から素直にストーリーを見たわたしは、わたしが少しづつ狂っていくのに連れられそうでした》(今)。

この作品は、細かい部分がどうとでも解釈できるようにできており(その辺、作り手は意識している)、一義的な解釈を提供しようとしていない。門付けの三人組の行く末について、中砂とイネが異なった解釈を示していたが、それは、“この作品の解釈は一定しませんよ”と、この映画が自分で宣言(自己言及)しているようなものなのかもしれない。

それなら、作品についてあれこれ考えることは無駄なのか。必ずしも、そうでないと思うので、もうすこし話を進めてみよう。

□7. 反復と増殖□

ストーリーをまともにつづいてもうまくいきそうにないというので、イメージの“反復”に注目してくれた人がいた。《マンガと映画との違い、それは何かというと、マンガは読みかえすことができるけれど映画の場合、読み返しができないということでしょう。だとすれば、作者になにか訴えたいことがあるとすれば、それは映像のなかで繰り返されている可能性や、凝視されている可能性が高いということになると思います》(北)。

この作品の場合、ストーリーがあるようでないので、その分だけ、反復の持つイメージが大きくなっている。《この映画のなかの独特のリズム、雰囲気は、観るものに、同じものをくり返し観せ、聞かせていることと関係がある…。一度観たものをもう一度観せ、その関連を考えさせ、答えはださない。(観る者をひっかける?)という風な感じ》(小)。《「ん?君、何か言ったかい?」…と、まったく同じセリフがあった。このような所が、見ている人の心を、「この場面、見たことある。」と、一瞬あせらせるような気がした》(和)。《この映像のつくりは、映画全体に使われ…。場面ごとに意味を持たせ、その心理描写をするときにはくり返し使われる》(町)。《ひとつの場面が“一般化”の作用をもっているのではないかと感じさせるのが、この映画のひとつの特徴》(北)。“反復”(繰り返して坂を登る、何回も本をとりやってくる、…)は、少々長めに作ってある映画になだらかなリズムを与え、同時に、青地をむしろむしむ神経症や脅迫観念を象徴するものともなっている。

登場人物のつながりやもつれにしても、おなじパターンが反復されることからできあがっているようである。北嶋さんは、門付けの三人(先達/若い男/若い女)が、《もとの所有者/所有者から奪う/誰かに所有されている》という立場(対立)から出来あがっていると考え、この《2:1の危なっかしい関係》が《ひさの夫/中砂/ひさ ⇨中砂/青地/園 ⇨中砂/青地/イネ ⇨妙子/周子/青地 ⇨青地/中砂/周子》(北)と展開していくとした。(そういえば、「所有」に関するこだわりは、最後の、貸した本を取り戻しにくる、というモチーフにも続いている。)《矢印の向きを、ちょっと変えるように、男と女がくるくると組みかわる》(置)。どの関係も、同形である。《盲目の三人組の子供版にはびっくりさせられた。先出のいやらしさがまるっきりないが、ゆく末がだいたい想像できる》(磯)。《彼らの生まれ変わりが出てきたのかと思った》(風)。《門付けの3人の子供》は《存在理由がわからない》(北)というが、これも、関係が反復され、再生産されるという同じ原理による、と考えればいいのではないか。(《子どものゴゼが出てくるが、これもまたパラレルワールド現象の一つ》(森)とみる説も、これに近い。)瓜ふたつのイネ⇨園が、お互いをなぞるような関係で登場するのが、この原理を表現している。手鏡をのぞく周子と妙子も、同様な反復の関係にあるかもしれない。《この鏡というのも左右逆の世界で、一種のパ

ラレルワールド》(森)。

登場人物が、互いをなぞり、反復するというは、誰も自分の同一性(アイデンティティ)を保っていないということでもある。このことの本当の原因は、「私」の自意識が犯されていること(神経症)にある、と理解できるのではないかと思うが、どうだろう。

□8. テーマ：骨□

この映画の場合、映像の積み重ねは、いわゆるストーリーの展開というより、同じパターンの反復でできている。とすると、そこから特定のメッセージやテーマをとりだすのは容易でない。《記号の理解は、ある種の教養のレベルに左右される》(置)ということではないにしても。

いろいろな読みこみが可能である。《きっとテーマはいくつもあるのだろう》(M)。《「死」がテーマだと思う。そして人は、死んでもかならず生まれかわるのだ(糺→豊子、園→小稲)》(鈴)、《聞こえるはずのない声や状況が聞こえ、見えてしまうということ》(青)、《“放浪する”ということは、“常でないことを続ける”ということ…。映画全体にただよう非常。これがテーマをさぐるカギ》(正)、《古典的批評：男の身勝手さと女の孤独、信用のならない肉と清らかで美しい骨、そしてまぼろしのような生と確実な死、…という対立》(北)。しかしテーマを《最後まで、特定できなかった》(穂)というのが、率直なところではないか。

そこでもう少し、話を小さく具体的にしてみる。すると、終始「骨」が話題になっていることに気付く。《この映画の中心は“ほね”であると私は思う》(磯)。《キーワードのように出てくる「骨」は、生の根元であり、死の象徴である》(今)。《骨は永遠の存在としての象徴であるとともに、永遠の死をいみしている》(北)。《骨はおそらくアイデア。真理の象徴》(森)、《人間存在の最も純粋な形態》(晶)(ち)。

映画の冒頭に真っ赤な蟹がでてくるが、《蟹は甲殻類つまり“骨”がむきだしな動物だ…。村の人びとの横あるきは蟹を意味している》(町)との指摘は面白い。血を吸いこんで、甲羅=骨は赤くなった。《赤い甲羅の蟹=中砂のように思える》(晶)と、踏みこむこともできる。とにかく中砂は、(赤い)骨にひかれる。小稲の弟は人妻に恋をして自殺したのだが、その《骨が紅くなるのは血をためたせいであり、“不倫”が原因であるとも言える》(北)。不倫で骨が赤くなるものなら、登場人物の骨はみな赤いはずだ。中砂の旅は《赤い骨を見つけ出すためのものではなかったか》(室)。骨を愛する中砂は《生きたまんまの人間を決して本当の意味で愛することができないことを意味している》(北)のかもしれない。

中砂が言い出して、骨を交換することになったが、《どういった意味があったのか》(和)と疑問に思うのがふつうである。青地はとっさに、《妻を取り変えよう》(町)と言われたのかと思って、ギョッとなった。《青地と周子、中砂と園は結ばれる相手をそれぞれとり違えている》(ち)とどこかで思っていたから、そう聞こえたのかもしれない。実は骸骨の交換だった。中砂が悪魔なら、それは契約であることになる。骨をやるとは、肉をくれるというおいしい話かもしれない。《中砂は骨的な人物、青地が肉的な人物と描かれていると思う》(町)。少なくとも青地はあんまり、骨に興味をもっていなかったようだ。なりゆきで約束したかたちになったが、中砂が死んだあと、青地はその約束を果たすことができない。

□9. 食品□

骸骨の交換の意味は、また考えるとして、骨と対比されるのは肉である。《映像のほとんどはおどろおどろしく、そしてエロティックな肉の描写だった》(北)が、特におびただしい食事のシーンが注目に値する。

滝沢さんは手回しよく、どこでどんな食品が出てくるか、詳しい一覧表を作ってくれた。これによると、実に25箇所、40以上の品目が登場する。また「駄目だよ」の声が聞こえる青地と周子の

食事のシーンでは、必要以上に盛沢山な膳が、食料の存在感を強調していた。《それにしても周子さんは、よく食べる》(森)。

《この映画は鱈の子、ちぎりコンニャクはじめ…食べ物のオン・パレードだが、ほとんど軟らかい食べ物であることに気付く》(森)。それだけでも骨と対照的だが、食物=肉=性、という連想が成り立つなら、この対比はもっと完全になる。《食欲=性欲》(入)、《食べることとセックスを結びつけて考えるというのは短絡的かもしれないが、こんにゃくから即座に連想したのは、その食品が男性のマスターベーションの際に用いられることがある、ということであった。…男性性器に似たものとしては、とうもろこし、うなぎ、さつまいも、女性性器を思わせるものとしては、こんにゃくのほかは水蜜桃、たらの子があげられると思う》(滝)。《うなぎは男根のイメージ》があり《中砂は片手で…ひょいとつかみ上げ…口穴におとしいれ…うなぎと同化した》(丸)。《園が何度もコンニャクをちぎるが、それは中砂のきらう人間の肉のように思える。ちぎってもちぎっても中砂の好きな骨は出てこないの、いらだちのようなものを覚えるのではないか》(晶)。いっぽう水蜜桃には、中砂好みの腐りかけた人間の肉のイメージがある。《桃はよく女性に例えられる》(入)。最後には中から、骨のように固い核^こが現れるのだ。

ところで、《妹が死んでいく時は鱈の子、園はコンニャク玉、中砂のビールと、死んでいく者が、生き残る者に食べるもの…を残していく》(島)のはなぜだろう。《鱈の子とちぎりコンニャクは、病に倒れたものからのプレゼント》(森)。《2人ともひそかに青地のことが好きだったのだ》(麻)。《それぞれ青地に対する愛情を示している》(ち)。

丸ムツさんは、《この作品において感じたことは、人間が生活していく上で重要な衣食住》の3点だとして、食品以外にも住居などの、比較考察を試みている。また、入船さんは《この映画にテーマが存在するとしたら、それは本質と形態である》と考えたうえで、《それがその場に応じて骸骨←→肉体であったり、くさった桃←→女性だったり、性欲←→食事だったり、土地←→ゴゼ男の死であったりしている》と分析してくれている。

□10. 色・音□

中砂は赤い骨にひかれたわけだが、色彩についてもここで少し考えよう。

《全編通して強調されているのが「赤」》(入)、《赤という色も度々出てくる》(正)、《色のイメージとしては、カニの赤、骨の白とさくら色だ。赤は血の色だ》(穂)、《なじかはしらねど印象的な赤の色。…ただこの映画の赤はちょっと下品な感じがしてしまう》(森)と、赤を中心に目にとめた人が多かった。《だいたい鈴木清順の絵柄のつかい方じたい、とても色づかいに気が使っており…1カット1カット“絵になる”とり方をしていると思う》(入)、《鈴木清順監督は…大変色に凝る監督だという話を聞いて…楽しみにしていたのだが、蟹の色が変に赤かった以外はけばけばしい色はみられなかった。…基調となっているのは中砂の心を惹きつけてやまなかった骨の白、骨によく似た硬質な蟹の甲羅の色である赤、そして桜色である》(滝)。映写するかわりにビデオでもみもらったので、本来の色彩の細部までとても見えなかったと思う。これ以上細かいところまでは無理というものかもしれない。

色彩と同様、効果音についても、いろいろと気付いた人が多かった。《この映画は「音」が大きなポイントだと思う》(ち)。《効果音はさまざまにつかわれているが、使われている音楽はツゴイネルワイゼンのみ。》(青)。だが、詳しくみれば、門付けのへんな替え歌や、中砂の鼻歌があった。《盲目の門付け芸人があらわれるときのくどきのうたと音楽、これは一種異様な雰囲気をかもしだしている》(ち)。《音は小さい音を効果的に使っている。全体的に静かだ》(穂)と感じる人がいるいっぽう、《いきなりわけのわからない急に速い動きや、大きな声や、物のわれる音に、たびたびびっくりしました。セリフが、特に青地のセリフがたんたんとして映画のリズムを作っているなかで、このびっくりは、ひやりと心に残りました》(小)という声もある。《洗濯板をへらで

かき鳴らしたような、「シャーコシャーコシャーコシャコ」といつも同じリズムで聞こえてくる音。…鈴の音。いつも五時をしらせる古いボンボン時計。(観る人間に無理なく時間を知らせ、そのことのつみ重ね。) 突然のどんぶりの割れる音、コンニャクをちぎる音(小)。《ポイント、ポイントに、決まった音の効果音が使われている。…その音は字に書いたような感じがする音で、私はそれを聞いて宮沢賢治の本を思いだした》(置)。「字に書いたような感じ」とは、うまく言えていると思う。

ひとつひとつの音に、特別ないみをさぐることもできる。《中砂の登場シーン、あるいは彼の動揺、不安を表わすのは、“チャッチャッチャッチャ”》(青)。《浜辺で…初めて聞こえるシャッシャという音も印象的である(この音はカーテンを引くときに生じる音に似ている)。中砂が破滅に向かわざるを得なくなるような、なにか強い感動を受けるときにこの音が響くのだと思われる》(滝)。《青地が中砂の家を訪れるときの映像としてあの切り返しの風景と“カーテン”というかしわ木を打つ音がある。…かしわ木の音は…なにか起こり得る新しい事物の予音ではないだろうか。…当然、打っていたのは中砂という鬼である》(室)。《村の人びとが、中砂が女を殺したと取囲むシーン…。中砂が芸者の手をにぎるとまたシャンシャンと鈴の音…。中砂が…死んでゆくシーンでも鈴の音…。おこつを見ようとすると鈴の音…。このように骨——特に汚れている骨と鈴の音とは無関係ではない》(町)。《青地と園が切り通しで出会う時、S22で拍子木が一回鳴る。…園がちぎりコンニャクを投げ出すのと同時に拍子木が五回。…映画のなかでの拍子木はあの世とこの世の変換の合図だと思う》(麻)。ただし《拍子木の合図がなくても、あの世とこの世は互いに交錯しているみたいだから、拍子木だけが境を意味する合図だとは言えない》(麻)。《“シャン”という音で　　というリズムの音。それからかねの音。この二つが…これからおこること…の予感を与えてくれる》(磯)。《シーン44…鐘音は、死と青地の動揺を、水音は不安と緊張感を表わす》(青)。

□11. 異常な出来事□

聞こえる音のうちのあるものは、そら耳や幻聴である。それらを聞いてしまうのは、主に青地だが、「駄目だよ」という声は周子も一緒に聞いている。また《シーン20で青地の話を聞いて中砂がびびっているのは、彼もその声を聞いたことがあるから》(青)かもしれない。さらに言えば、彼らに限らず《この映画の登場人物は、どこかしらおかしいのです。中砂は自ら称していますし、正常にみえた小稲やわたしもだんだん狂っていきます。周子の変貌も著しい》(今)。

《「だめだよ。」という男の声。青地の「心の声」と言うべきなのだろうか》(和)。《青地自身は言っていないのだが、心の奥底にどれも思っていると思う》(晶)。サラサーテの声のほうは、たしかにレコードの中に録音されているから、そら耳ではない。しかし、中砂も青地もその声に深くみいられてしまうのはなぜだろうか。《かすかに聞こえるサラサーテの声は、あの世からなにかを言っているというように思える。…「駄目だよ」という声…もあの世からの声だと思う》(麻)。中砂が死んでから、豊子がきれぎれに中砂と話すという声も、《よく聴きとれない声、という点、サラサーテの声を連想させる》(北)。

北嶋さんは、奇怪現象のリストを作ってくれた。それによると、小石の落ちる音—S25、67。鯉の子—S19、35、51。ちぎりコンニャク—S49。骨—S9。声—S10、19、78、86。水をかけられる—S68。小石がおちる音が聞こえるのがどういう時かとみてもみると、そのあと《園、中砂、妙子の順で死んでいる。…とにかくこれらの奇怪現象が、“生”ではなく“死”を意味していることは確かなようだ》(北)。ほかにも同意見の人がいる。《主人公は、屋根から小石の転るような音を聴いて、身震いし、真っ青な顔になったのは、次々と死んでいく人達(中砂)の骨が、主人公を呼びにきたと思ひ、考えたからに違いない。現に中砂の妻だった園が、死ぬ前にも、屋根から石が落ちた音を、主人公は聴いているからだ》(風)。

たら子や屋根に落ちる小石は、原作にある話で、作者(内田)のノイローゼ体験にもとづいているという。

□12. 印象に残ったシーンあれこれ□

この映画は、いちいちの場面がそれなりに完結するように作られているので、印象に残ったシーンをあげてくれた人が多かった。《細部はどこを取っても素晴らしく、映画全体が艶感触をもって》(榊)。《この映画はイメージの宝庫…。とても凝った作りで、緻密に作られていて、素晴らしいと思う》(穂)。《生々しい場面が多かった気がする。こういった点で、視角的な面では、血の気のある、人間臭い映画であった》(和)。《日常の出来事、例えば食事のシーンとか、目に入ったゴミを取るシーンとかを、極端に誇張して煮つめて表現しており、それが主人公と観客をだんだんと常軌を逸した世界に引きずり込んでいる》(TE)。いくつか拾ってみよう。

《映像がとてもきれいなのがとてもよかった。私が気に入っているシーンは初めて出てくる切り通しのシーンである》(麻)。鎌倉にいっぱいある切り通しのうち、釈迦堂やぐらの切り通しと化粧坂けいさかがロケに使われた。《それから、切り通しなんか、印象的である》とのべる正木さんは、斎藤真一という放浪の画家を思いおこし、滝沢さんは岸田劉生の「切通しの写生」を思い出したそうである。

森本さんは、S22:切り通しで青地と園がぼったり出会う場面に注目する。《青地が園に「どちらまで? どこへ行かれるんですか?」とくり返したずねる個所でフィルムがちょっと戻る。…この部分で青地さんはズレた世界、別次元へ足を踏み入れてしまったのだと思った》(森)。フィルムが戻るとしても、つなぎそこないの可能性もあるが、しかしともかく、切り通しやトンネル、坂などの往還が、この作品にもつ意味は大きい。

《それから中砂が大きな桜の木の下で…死んでゆき、その時の桜吹雪が電話のシーンにも続いているのもきれいだ》(麻)。《あっ、電話をしている、こんな近くで電話をしていると思って、この電話をしているシーンをハッキリと覚えている》(鈴)。《特にS57はよい》(森)。《映像として焼きついている場面がある。それは富士山を背景にして中砂が満開の桜の真中で首だけ出して死んでいくシーンだ》(島)。島崎さんは、このシーンから、西行、梶井基次郎、坂口安吾、太宰治らが桜と死を結びつけて描いた文学の伝統に連想を広げている。作り手の側でも当然、そうした連想を計算にいれて撮っていると思われる。

蕭さんは《言葉よりも強くて、印象的だと思うシーン》として、①浜辺の村人の動き、②三人の盲人の門付けが去っていく時の手の動きと表情、③門付けの男女が綾取りをし、飴玉をあたえるシーン、④中砂が小稲の体を指先で探る、⑤周子が眼球を舐める、⑥トンビの下で中砂と周子の体が動く、⑦浜辺で頭の叩きあい、⑧三人の子供ゴゼ、⑨妙子の回想シーン、をあげている。《感情というもののが役者の体つきによってほどよくあらわされ…われわれの心まで響きわたってきます。なんとすばらしい表し方でしょう》(蕭)。しぐさの話が出たついでに言うと、中砂が手首をだらんと下げて“幽霊”のポーズ(?)をしているあたりが、公開当時話題になった。今回、これにふれたレポートはなかった。

《目立った映像としては、場面展開の方法である。普通常識的には、パンチが入ったり、時間の経過を表わす画、明暗等の色調がつくもののだが、それをまったくせず、ながまわしで撮ってしまう》(S35・妙子の病室)。又、S46における玄関・壁の自動ドア編。これにはまいった》(大)。

《S55:節分の場面で、監督がメインの四人の並び方にかかなりこだわったエピソード》に、森本さんは注目する。また、《中砂が、自分自身に鬼は外といいながら豆を投げるのは、自分自身が鬼であると思っているから。青地やイネが中砂に投げるのも同様》(青)とは、面白い指摘。

いっぽう、これに対して、《花火のシーンで全出演者が出ているが、そのシーンは何の意味もない》(M)という指摘もある。《ちょっと失望を感じたのは、S26の小稲の傘が、トンネルの中から、

空に舞い飛ぶシーン》(大)。また、全体に《見慣れた表現法…。舞台での…ように不自然で、奇妙な展開をする技法》(あ)とする、否定的な声もあった。

□13. 結末部分□

さて、何年か経ってイネが、青地のところに、中砂の本をとり返しにやってくる。きまって夕方。背をむけて立っており、足は写らない。蚊帳かなにかをかぶせて撮影したそうで、全体にうす暗い。「ヘクセンプロフェッセ(魔女教団?)」というような原書の題名を、豊子が夜中にうなされて死んだ中砂と話をするなかから聴き取っては、やってくるのだという。《豊ちゃんはこの時、この世のものだったかどうか、わからない。…イネにしたって、きまって夜になってから現れることから、ちゃんと生きてると断定できないところがある。なんだか一体誰が本当に生きているのかわからなくなってくる》(北)、《豊子はやはり死んでいる》(青)。一步進めて、《小稲は死んだ中砂がばけていた》(舟)というのも、いかにもありそうな線。

最後にイネが、レコードを取りに来る。レコードは、周子が隠していた。《この映画には、隠すという動機がつねにあった…。一人一人何か隠していたにちがいない》(飯)。

《レコードとは要するに、同じことの繰り返し。針は常に同じ溝を辿り、同じ曲を奏で変わることがない。故に日常・マンネリの象徴か。…「ツィゴイネルワイゼン」のレコードは、サラサーテの音が録音されているということで、マンネリから逸脱している。…その声は何をいっているのか聞きとれず、それがまた輪をかけてこの物語の訳のわからなさを象徴するように、見る者聞く者をいらつかせる》(森)。《サラサーテは中砂である》(北)。

《豊子は中砂の生まれ変わりではないか?》(M)。《レコードとは中砂であり、とよ子も中砂の血を受け継いだ唯一の人物である。…ここでの豊子はまさしく中砂》(町)。《もっとも恐いのは、理性を持たない子供、豊子の存在です》(今)。《豊子の不思議な行動を、中砂の死後の行為と解すると、中々、常ではないことがわかる》(正)。《少女はすでに死んでいて…主人公を死後の世界…へ連れて行こうとしていた》(風)。

ラストシーンについては、こんな意見が聞かれた。《この映画の場合、なぜか最後の場面が強く印象に残っていない》(和)、《最後の「お骨を頂戴」をどんでん返しとみる人が多いと思うが、私はあまり意味のないシーンではないかと勝手に判断する》(入)、《ラストの部分は、私は好きではない。…最後の子供のところだけが、何だかとても安易な印象なのだ》(穂)。

私も同じ印象をもつ。大昔、たしかロジェ・バディム、ルイ・マル、フェリーニの三人によるオムニバス映画「世にも怪奇な物語」というのがあったが、その内最後のフェリーニが監督した部分も、怪しげな少女が主人公の死に介在する、似たような結末だった。その妖しげな雰囲気と比べると、この結末はキマっていない。腰折れの印象である。青地が江ノ電にはねられて死ぬ、という結末も一時考えられたらしいが、そのほうがずっとよかつたろう。

ともあれ、全体の評価は、《表現法ばかりに気を取られ…自らを楽しませる感情を見失っている》(あ)という人、《正直言って良いのか悪いのかさっぱりわからない》(イタ)、《物語りの展開としては面白い作品ではあるが、いまひとつ、ひきつけられることはなかった》(飯)という人から、《実に懇切丁寧に作られた逸品》(森)、《作品自体だけがすべてを知っていて、その中で役者が踏らされていたという気さえする、すごい作品》(町)という人まで、かなりの幅があった。

□14. ずばり解説?□

このようになかなかアプローチの難しい映画だが、ひとくちで言うとこの作品はこうだ、と率直にのべてくれた人が何人もいた。

《終わりのない夢物語などというものが、もしかしたら作者のメッセージ》(置)。《この映画は死への賛美という耽美主義的な背景を貫いた一つの作品として成り立っている》(島)。《言うべき

ことは、心の中に有るものは、たとえ死んだとしても、骨のように残って、言うべき人には伝わる、きこえるというのがこの映画のテーマのように思える》(舟)。《異常なのが本来の姿であり、正常というのがその一形態、もしくは作られた幻想なのかもしれない、ということ》(今)。

渡辺さんは、この作品を《異質なものはすべて排除されていく…管理と抑圧という制度》ないし《たてまえ社会における人間像》として、私=青地を描いている、と受け止めた。

この作品が《多元的》であるとする北嶋さんは、《要するに、青地の目を通して、中砂の放浪生活を描いた映画なのである。また、もうひとつの見方をすれば、中砂の生き方云々ではなく、中砂があくまで求め続けた“美しい清らかな骨”と“信用できない肉”——すなわち、“生と死”“男と女”そのものを描いた作品なのだと思う》と整理している。古典的批評としては、《男の身勝手さと女の孤独、信用のならない肉と清らかで美しい骨、そしてまぼろしのような生と確実な死、…という対立を作者は表現しようとしている》(北)、とまとめられるというのだ。

森本さんは、SFに想をえて、パラレル・ワールド説を展開する。《とにかく私が感覚的に捉えたところ、これはパラレル・ワールドの話ではないかと思った次第。…パラレル・ワールド。我々の住むこの世界とよく似ているが微妙に異なった部分のある世界。理論上…各世界が交叉することはありえない。が、しかし、ありえてしまったのが、この「ツィゴイネルワイゼン」の世界なのではなからうか。…いくつもの時の流れの中に各々青地も、中砂も、園も、周子も、イネも存在しているのだが、例えば①の流れにいるべき青地が、突然②の世界へまぎれこんでしまった。故に突然の②での現象が、①にいた時の現象とモラルや考え方等が違っていつじつまが合わず、故にヘンだ。おかしい。と感じた。——のではないだろうか…。ゴゼの成り行きにおける中砂とイネの説の食い違いも、このパラレル・ワールド説で納得がゆく…。子どものゴゼが出てくるが、これもパラレル・ワールド現象の一つ…。レコードの溝一本一本が各々の時の流れ、世界を表し、サラサーテの音が各々の世界を行き来するのを可能にするきっかけ…に受けとれる。また…溝が一本につながっているというのもまたミソである。タイトルのツィゴイネルワイゼン=ジプシーというのは、文字通りその各々の時の流れを歩き来する者たち全て…人間という生き物全てを表しているのだろう》(森)。

正木さんは、この作品の多元性を、「やきとり」に喩える。《この映画が“何やらよくわからない”と感じさせるのは、ねぎがところどころ挿入されているかららしい。ねぎというのはやきとりの肉と肉の間になぜか入っているねぎのこと…。肉がストーリーをつなげる本脈だとすれば、ねぎは“色をそえる”の色にあたる…。ねぎがたくさん入れれば入るほど、本脈がよくわからなくなり、ねぎの味だけがのこってしまう》(正)。ねぎの部分とは例えば、盲目の三人。肉の部分は私-中砂-イネ-園の三角関係。そして串=テーマは《ツィゴイネルワイゼンを考えるだけで…わかる》(正)という。

それに続けて、《実は私が一番非常なのであって、周辺の正常を違常へと作りかえた映画なのではないかと、ぼつりと思ってしまった》(正)というのは、重要な着眼ではないだろうか。なぜなら《虚と実、狂気と正気…どちらの男がどちらを担っているか、はっきりと語られていないのが、おもしろいと私は思う。普通にみれば、中砂が「狂」だが、一面からみれば、青地こそ「狂」でありうる》(穂)と言えるからだ。

*

この線を敷衍して、最後に私(橋爪)の理解の一部をのべよう。この作品の映像は、現実と夢とが入りまじってできあがっているが、その区別はいつでも判然としているわけではない。ところが、観る者は、特に自覚しないのだが、つい現実と夢を区別しよう(区別できる)と考えながらみていくので、いつのまにか混乱し、どうしても不思議な印象をもってしまう。《妙子と(私)の夢…登場人物各人の夢が交錯してきた》(大)のかもしれない、《ネバーエンディング・ストーリーのように》(大)。この作品の映像全体は、あくまでも私=青地を中心に、できあがっている。